岐阜県文化財保護センター
調査報告書　第118集

深渡A地点遺跡Ⅱ

2011
岐阜県文化財保護センター

深渡（ふかと）A地点遺跡Ⅱ

2011

岐阜県文化財保護センター

深渡Ａ地点遺跡全景（北東から）

深渡Ａ地点遺跡全景（南から）

序

美濃加茂市は、岐阜県の中央南部に位置し、木曽川と飛騨川が合流する開けた盆地にあります。古くから木曽川運材の中継地点として重要な役割を担ってきました。また、市内には中山道が通り、太田は宿場町として栄えていました。現在でも、鉄道や国道などの幹線交通路が集結し、交通の要衝として知られています。

このたび、岐阜県農政部可茂農林事務所による県営一般農道整備事業に伴い、美濃加茂市下米田町にある深渡Ａ地点遺跡の発掘調査を実施しました。深渡Ａ地点遺跡は縄文時代から近世にかけての遺物が見つかっている遺跡です。本報告書は今年度実施した調査成果をまとめたもので、深渡Ａ地点遺跡としては２冊目の調査報告書となります。

今回の調査では、溝跡、土坑、集石遺構といった中世の遺構を確認するとともに、山茶碗、古瀬戸などの陶磁器類からは当時の人々の暮らしぶりをうかがうことができます。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、美濃加茂市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成23年３月

岐阜県文化財保護センター
所長　高橋　照美

例　言

1　本書は、岐阜県美濃加茂市下米田町大字西脇字廣末に所在する深渡Ａ地点遺跡（岐阜県遺跡番号21211-04435）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、県営一般農道整備（牧野地区）事業に伴うもので、岐阜県農政部可茂農林事務所から岐阜県教育委員会が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、平成22年度に岐阜県文化財保護センターが実施した。

3　発掘調査及び整理作業の担当は、本書第１章第２節に一括掲載した。

4　本書の執筆及び編集は澤村雄一郎が行った。

5　発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、測量、景観写真撮影などの業務は、株式会社興栄コンサルタントに委託して行った。

6　遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。

7　発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）
可児光生、高橋健太郎、藤村俊　美濃加茂市教育委員会

8　本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を使用する。

9　土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄2006『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

10　調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目　次

序
例言
第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査の方法と経過 …… 3
第２章　遺跡の環境 …… 6
　第１節　地理的環境 …… 6
　第２節　歴史的環境 …… 7
第３章　調査の成果 …… 10
　第１節　基本層序 …… 10
　第２節　遺構・遺物の概要 …… 11
　第３節　北区の遺構と遺物 …… 13
　第４節　南区の遺構と遺物 …… 20
第４章　総括 …… 39
参考文献 …… 42
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置 …… 1
第２図　試掘確認調査設定位置図 …… 2
第３図　調査区・グリッド設定図 …… 4
第４図　美濃加茂市の河岸段丘 …… 6
第５図　深渡Ａ地点遺跡周辺の遺跡 …… 9
第６図　基本層序 ……10
第７図　遺構断面形状分類図 ……12
第８図　北区の遺構（１）・溝跡(SD4) ……15
第９図　北区の遺構（２）・溝跡(SD7) ……16
第10図　北区の遺構(3)・溝跡(SD1･2･9)・土坑(SK35) ……17
第11図　北区出土の遺物 ……18
第12図　南区の遺構(1)・溝跡(SD17･18･19)、土坑(SK91) ……21
第13図　南区の遺構(2)・土坑(SK62･66･101･106)・
集石遺構(SI1～4)) ……22
第14図　南区出土の遺物 ……23
第15図　調査区全体図（北区） ……26
第16図　調査区全体図（南区） ……27
第17図　調査区分割図１ ……28
第18図　調査区分割図２ ……29
第19図　調査区分割図３ ……30
第20図　調査区分割図４ ……31
第21図　調査区分割図５ ……32
第22図　調査区分割図６ ……33
第23図　調査区分割図７ ……34
第24図　調査地周辺の地割り状況 ……40
第23図　調査区付近の地割り状況 ……41

表目次

第１表　深渡Ａ地点遺跡試掘・確認調査結果 … 2
第２表　周辺遺跡一覧表 …… 8
第３表　基本層序対応表 ……11
第４表　遺物出土点数 ……13
第５表　遺構一覧表（１） ……35
第６表　遺構一覧表（２） ……36
第７表　土器観察表（１）掲載遺物 ……37
第８表　打製石斧観察表 ……37
第９表　ＭＦ観察表 ……37
第10表　土器観察表（２）未掲載遺物 ……38
第11表　グリッド別出土点数 ……39

写真図版目次

巻頭図版
深渡Ａ地点遺跡全景（北東から）
深渡Ａ地点遺跡全景（南から）

巻末図版
図版１
北区全景（西から）
南区全景（西から）
図版２
北区調査前風景（北から）
南区調査前風景（東から）
SD4礫検出状況（北東から）
SD4山茶碗出土状況（北から）
SD4完掘（北東から）
SD2（西から）
SD9（右側、北西から）
SK35（南から）
図版３
SD17･18･19（東から）
SD17･18･19（北から）
SD17･18･19（南から）
SD17･18検出状況（東から）
SD17･18･19埋土断面（西から）
図版４
SK91（東から）
SK66（右側、南から）
SI1（西から）
SI2（南東から）
南区出土遺物
図版５
北区出土遺物

第１章　調査の経緯

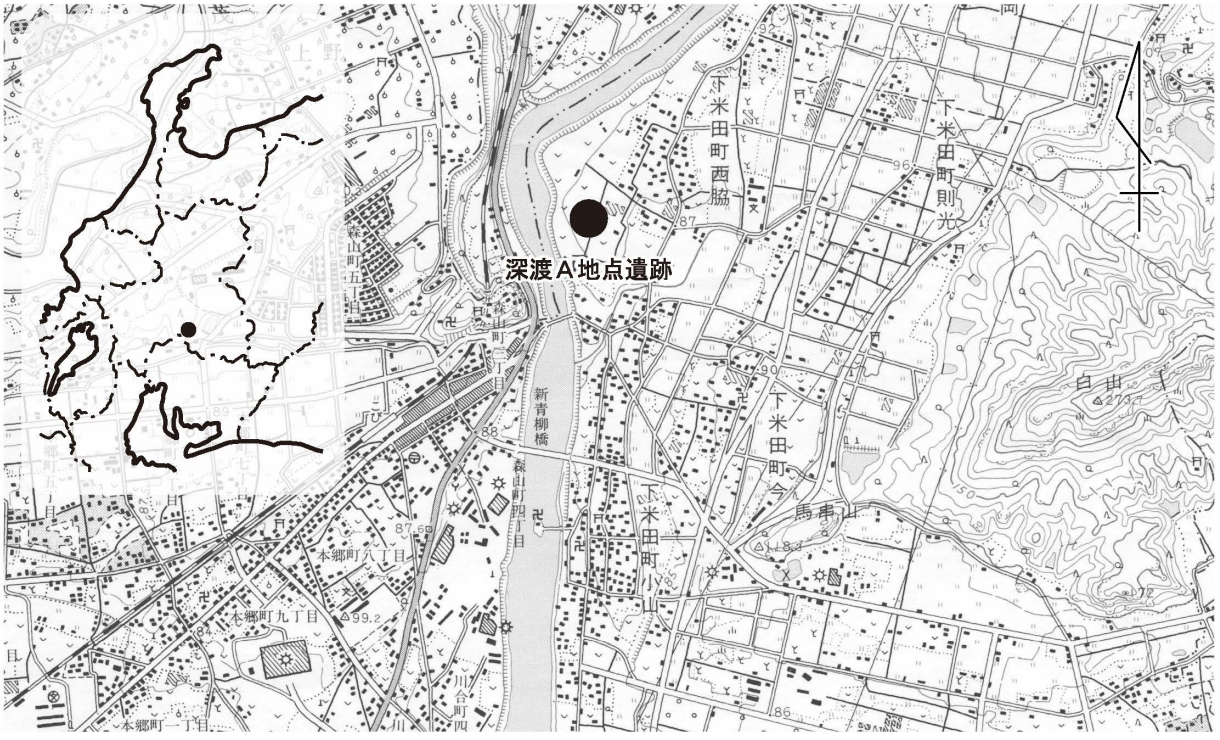
第１節　調査に至る経緯

深渡Ａ地点遺跡は、美濃加茂市下米田町西脇に所在する。今回の発掘調査は、岐阜県農政部可茂農林事務所による県営一般農道整備事業に伴い実施したものである。

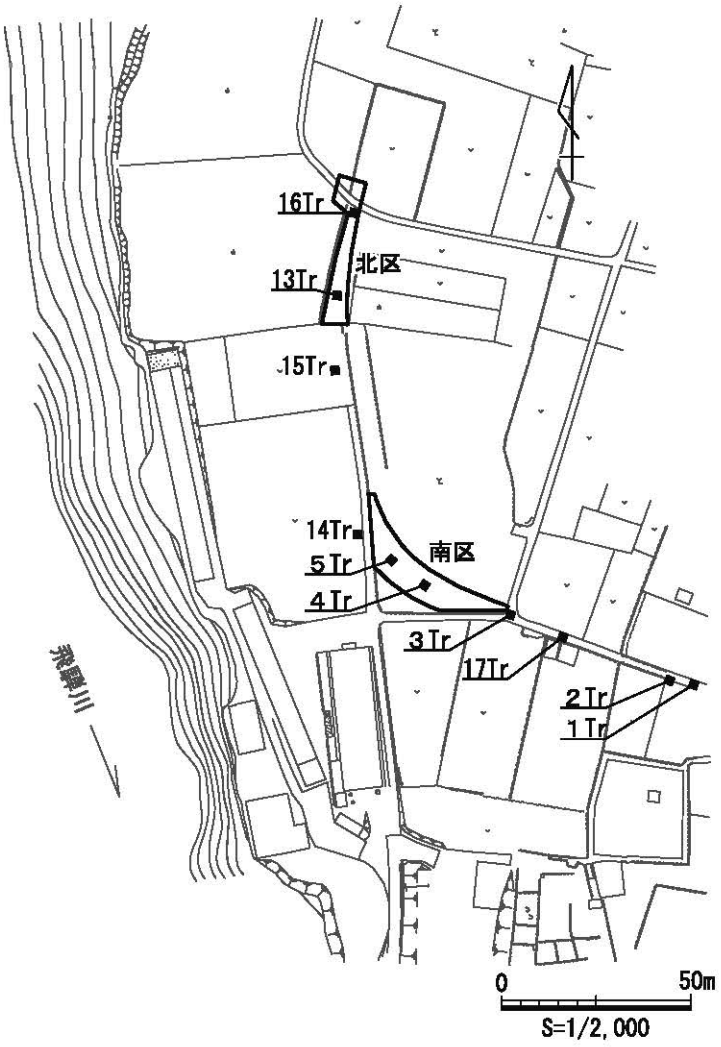
県営一般農道整備事業は、飛騨川左岸の下米田町西脇地区の畑地を南北に貫く農道を整備する事業である。事業に先立って岐阜県農政部可茂農林事務所では岐阜県教育委員会に対して開発事業計画地における埋蔵文化財包蔵地の有無の照会を行った。岐阜県教育委員会で遺跡地図や遺跡台帳等の照合を行った結果、事業地内に周知の埋蔵文化財包蔵地である深渡Ａ地点遺跡が所在する事を確認した。平成10年度、美濃加茂市教育委員会により試掘・確認調査が行われた。調査の結果、遺物包含層が確認され、弥生土器、須恵器、山茶碗、中近世陶器などが出土した。これを受けて平成14年度に財団法人岐阜県文化財保護センター（現岐阜県文化財保護センター）が1,400㎡の本発掘調査を実施した。

その後、事業の進捗に伴って、平成21年度に美濃加茂市文化振興課により開発事業予定地に新たな試掘地点を設定し、試掘・確認調査が行われた。調査の結果、遺物包含層及び土坑が確認され、弥生土器、土師器、山茶碗、中近世陶器などが出土した。平成10年度及び21年度の試掘・確認調査の結果は第２図、第１表のとおりである。これらの結果を踏まえて、平成21年度岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会を開催し、深渡Ａ地点遺跡611.3㎡の本発掘調査が必要であると判断した。

発掘調査は、平成22年７月１日、８月10日に文化財保護法第99条による埋蔵文化財発掘調査の報告（文財セ第61,84号）を岐阜県教育委員会に提出し、７月８日、８月18日に岐阜県教育委員会より埋蔵



第１図　遺跡の位置（国土地理院発行の２万５千分の１地形図「美濃加茂」を使用した。）



第２図　試掘・確認調査設定位置図

第１表　深渡Ａ地点遺跡試掘・確認調査結果(平成22年度調査関連)

年度	トレンチ	検出遺構、堆積状況	出土遺物
10	１tr	なし	なし
	２tr	なし	なし
	３tr	土坑2基	山茶碗２
	４tr	地山直上に安定した土壌化層	近世陶器１
	５tr	土坑2基、地山直上に安定した土壌化層	弥生土器１、山茶碗２
21	13tr	なし	弥生土器～土師器３、山茶碗13、土師皿４、擂鉢２、近世陶器９
	14tr	なし	土師質土器１、近代染付１
	15tr	なし	山茶碗２、鼠志野丸皿１
	16tr	土坑1基、地山直上に安定した土壌化層	なし
	17tr	地山直上に安定した土壌化層	擂鉢１、土師皿１

文化財発掘調査の報告についての通知(社文第38号の18,19)を受けて、平成22年度に岐阜県文化財保護センターが実施した。なお、文化財保護法第99条による埋蔵文化財発掘調査の報告は２度の提出となっている。これは99条提出後、調査途中に事業者による用地買収に目途が立ち、調査範囲に追加箇所が生じたため追加箇所についての99条を別途提出した。

第２節　調査の方法と経過

１　調査の方法

当初、611.3㎡の本発掘調査を行う計画であったが、調査途中で北区において15.3㎡の追加調査を行うこととなり、最終調査面積は626.6㎡となった。

調査区の設定　調査区画は、世界測地系座標を基に100m×100mの大グリッド、西から東へＡ・Ｂ大グリッド、Ａ・Ｂ大グリッドの南側に西から東へＣ・Ｄ大グリッドを設定した。今回の調査においてＢ・Ｄ大グリッドは調査区外となるが、遺跡範囲を考慮し、設定した。この大グリッドを分割して５ｍ×５ｍのグリッドを設定し、北から南へＡからＴ、西から東へ１から20とし、それらを組み合わせ、さらに大グリッド名を頭に冠してグリッド名とした。なお、平成14年度の調査においては、日本測地系座標によりグリッドを設定した。このため、グリッドの軸線は異なっており、グリッド名についても本発掘調査に当たり新規に設定した(第３図)。

掘削作業　表土を重機により除去した後、遺物包含層(以下「包含層」と略称)の掘削、遺構検出、遺構掘削をジョレン・ねじり鎌などを用いて人力で行った。遺構番号は、検出順に通番とし、平成14年度調査と重複しないよう401から番号を与え、遺構の性格を想定した記号を組み合わせて表した。この番号は二次整理作業時に遺構種別ごとに振り替えたが、本書の「遺構一覧表」に「登録番号」として記載している。

遺構平面図・断面図　個別遺構の調査に当たっては、デジタル遺構実測システムにより平面図を作成し、断面図は、手測り実測した図面をスキャニングによりデジタル化して作成した。

調査区全体図　遺構の検出過程で、遺構の配置と切り合い関係を示す遺構全体配置図は、電子平板システムを用いて作成した。調査区全体図は、個別遺構の平面図を合成して作成した。

写真撮影　１眼レフ35㎜カメラ(リバーサルフィルム、モノクロフィルム)、中判カメラ(リバーサルフィルム、モノクロフィルム)、デジタルカメラで撮影した。遺跡の景観写真は、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影による。

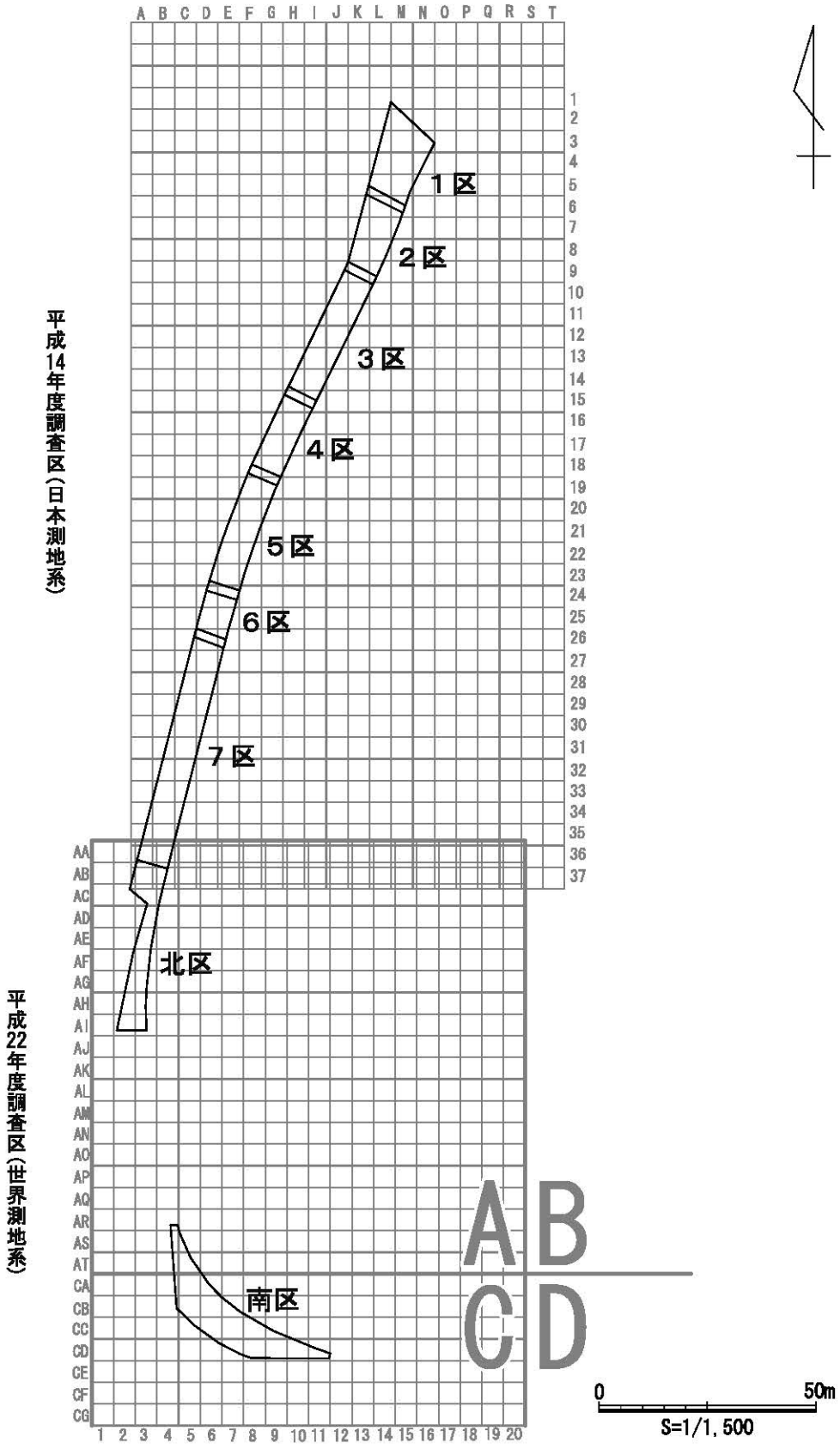
遺物取り上げ　包含層、遺構出土遺物とも原則として出土位置を三次元座標の測定を行った上、取り上げた。

２　調査の経過

現地での調査経過は次のとおりである。

第１週(６/28～７/２)　28日、重機による表土掘削開始。30日、表土掘削終了。２日、人力掘削開始。

第２･３週(７/５～７/16)　５日、北区遺構検出、検出写真撮影及び略測図作成開始。北区・南区排水溝を兼ねた基本層序検討用トレンチ掘削及び壁面清掃開始。７日、可茂農林事務所と北区追加調査



第３図　調査区・グリッド設定図

に関する協議。８日、北区遺構検出及び検出写真撮影終了。９日、南区遺構検出、検出写真撮影及び略測図作成開始、北区略測図作成終了。16日、トレンチ掘削終了。

第４週（７/20～７/23）　21日、南区遺構検出及び検出写真撮影終了。23日、北区遺構掘削開始。27日、南区略測図作成終了。

第５週（７/26～７/30）　27日、北区遺構実測開始。

第６・７週（８/２～８/10）　２日、南区遺構掘削開始。５日、北区追加調査分人力による表土掘削、遺構検出、略測図作成（同日終了）。

第８・９週（８/18～８/27）　19日、可児光生氏、藤村俊氏（美濃加茂市文化振興課）による現地指導。26日、空中写真撮影。

第10週（８/30～８/31）　31日、北区南区遺構掘削、遺構実測、写真撮影終了、可茂農林事務所へ現場引渡、撤収作業完了。

現場作業終了後、出土遺物の一次整理、二次整理作業及び報告書作成作業は岐阜県文化財保護センターにおいて行った。発掘調査から整理作業までの体制は次のとおりである。

発掘調査及び整理作業の体制

センター所長	高橋照美
総務課長	長屋忠司
調査課長	小谷和彦
調査担当チーフ	早野壽人
担当調査員	澤村雄一郎
整理作業員	丹羽香、堀三恵、藪下賀代子

発掘調査の様子

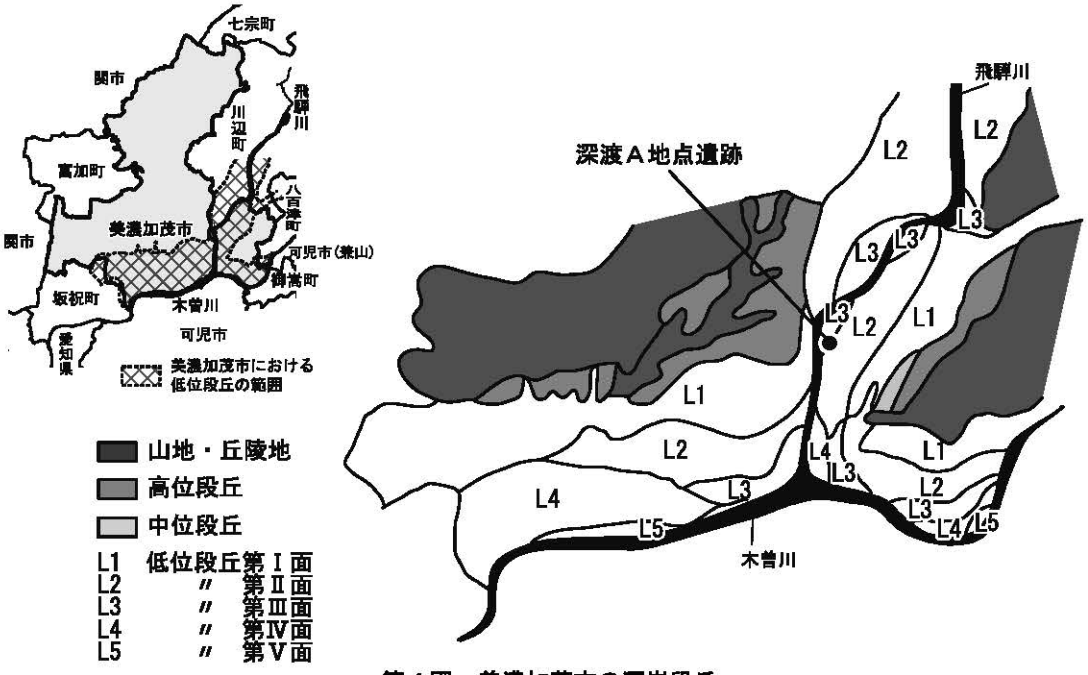
第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

深渡Ａ地点遺跡の所在する美濃加茂市は、岐阜県の中央南部に位置し、東は加茂郡川辺町・八百津町・可児市(兼山)、北は関市・加茂郡七宗町、西は関市・加茂郡富加町・坂祝町、南は木曽川をはさんで可児市・可児郡御嵩町に接している。市内を南北に貫いて流れる飛騨川は、市の南端で木曽川と合流している。木曽川運材の中継地点として中世以来重要な役割を担ってきた。また、市内には中山道が通り、太田は宿場町として栄えており、古くから交通の要衝として知られている。

市域北部は美濃山地の南端に位置して標高約300～500ｍの山地が発達し、急峻な地形も見られるが、南西に向かって次第に低くなっている。このため、市内における標高の最高地点は市の最北端部にある。中部では、標高140～240ｍの丘陵地(中部丘陵地)が広がる。この丘陵地も南西に向かって低くなっており、小さな谷が複雑に伸びている。東部から南部にかけては平坦な地形が広がり、飛騨川や木曽川に沿って、古木曽川や古飛騨川の堆積と浸食により形成された数段の典型的な河岸段丘が発達している。この美濃加茂市から可児市にかけて広がる河岸段丘は、美濃加茂盆地と呼ばれている。美濃加茂盆地の河岸段丘は、河床からの比高で古い順に高位段丘、中位段丘、低位段丘に分けられる。低位段丘は地形からさらに５段(L1～L5の５面)に分けることができる(第４図)。

当遺跡は、飛騨川左岸に広がる低位段丘上のL2面上に位置する。今回の調査地点は、L2面とL3面の境界付近で遺跡西側は一段下がりL3面となっている。遺跡周辺は非常に水捌けがよいことから水田には適さず、主に畑地として利用されている。



第４図　美濃加茂市の河岸段丘
(美濃加茂市教育委員会編1994『大地の生いたち美濃加茂』をもとに作成)

地質をみると、北部地域には約２億年前の地層でできた美濃帯中生層(砂岩、泥岩、チャート、混在岩)が分布する。このうち混在岩の中に取り込まれた石灰岩はかつて石灰の原料として採掘されたことがある。

中部丘陵地には約2,300万年前の火山活動で陥没してできた新生代新第三紀中新世の瑞浪層群蜂屋累層(溶岩、火山砕屑岩、凝灰角礫岩、火山角礫岩)が分布している。凝灰角礫岩には、樹木が二酸化炭素に置き換わってできた珪化木(けいかぼく)が見られる。山之上町金谷にある巨大な珪化木は岐阜県の天然記念物に指定されている。また、中部丘陵地南端部では新第三紀中新世の瑞浪層群中村累層(砂岩、泥岩、礫岩、亜炭、凝灰岩)、瑞浪層群平牧累層(凝灰角礫岩、礫岩、砂岩、凝灰岩、凝灰岩質砂岩)や、400万年前東海湖へ流れ込む大河川に堆積した新第三紀鮮新世の瀬戸層群土岐砂礫層などが分布する。なお、中村累層の亜炭層は御嵩町などに分布する亜炭層と同じ地層で、かつては燃料用に採掘されたことがある。

美濃加茂盆地の河岸段丘は、河床からの比高で古い順に高位段丘、中位段丘、低位段丘に分けられる。高位段丘は、上野地区に広がる約30万年前に造られた上野面で、風化が進んだ赤褐色のクサリ礫層になっている。中位段丘は、加茂野地区に広がる約5万年前までに造られた加茂野面で、御嶽火山が噴出した軽石を含む礫層(木曽谷層)や木曽川泥流堆積物が堆積している。低位段丘は飛騨川や木曽川沿いの下米田、古井(こび)、太田地区に広がり、約３万年前以降に堆積した礫層とわずかの砂層で形成されている。

第２節　歴史的環境

美濃加茂市から可児市にかけての美濃加茂盆地では、前述の通り飛騨川及び木曽川によって形成された河岸段丘が発達している。この河岸段丘上には多くの遺跡が分布している。当遺跡の所在する低位段丘上の遺跡を中心に時代順に概要を述べる。

旧石器時代では、川合遺跡(57)においてナイフ形石器、彫器などが出土している。この他美濃加茂市内では、尾崎遺跡、北野遺跡、市橋北野遺跡(いずれも第5図の範囲外)などでナイフ形石器、細石刃などが確認されている。

縄文時代の遺跡は、冨田清友遺跡(９)、牧野小山遺跡(25)などがあげられる。冨田清友遺跡では縄文時代早期の竪穴住居跡や煙道付炉穴を確認している。また、牧野小山遺跡では早期から晩期の遺物を確認しているが、中期後半が主体をなす。

弥生時代の遺跡は、野笹遺跡(37)、藤田坂遺跡(79)、為岡遺跡(92)などがあげられる。野笹遺跡では遠賀川式の壺形土器が出土している。藤田坂遺跡では弥生中期後半の竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡8棟を確認し、台付き細頸壺が出土している。為岡遺跡では14基の方形周溝墓が確認されているが、周辺で住居跡は確認されず、墓域を形成していたと考えられる。

古墳時代については、古墳では稲荷塚古墳(８)、長塚古墳(75)、野中古墳(73)、西寺山古墳(76)などがあげられる。稲荷塚古墳は当遺跡の北東約0.75㎞に所在し、この地区における中核的な古墳であると考えられている。また、長塚古墳、野中古墳、西寺山古墳は「前波の三ツ塚」と呼ばれ、東濃地区を代表する前期古墳群である。なかでも長塚古墳は東濃地区最大の前方後円墳で、国史跡に指定さ

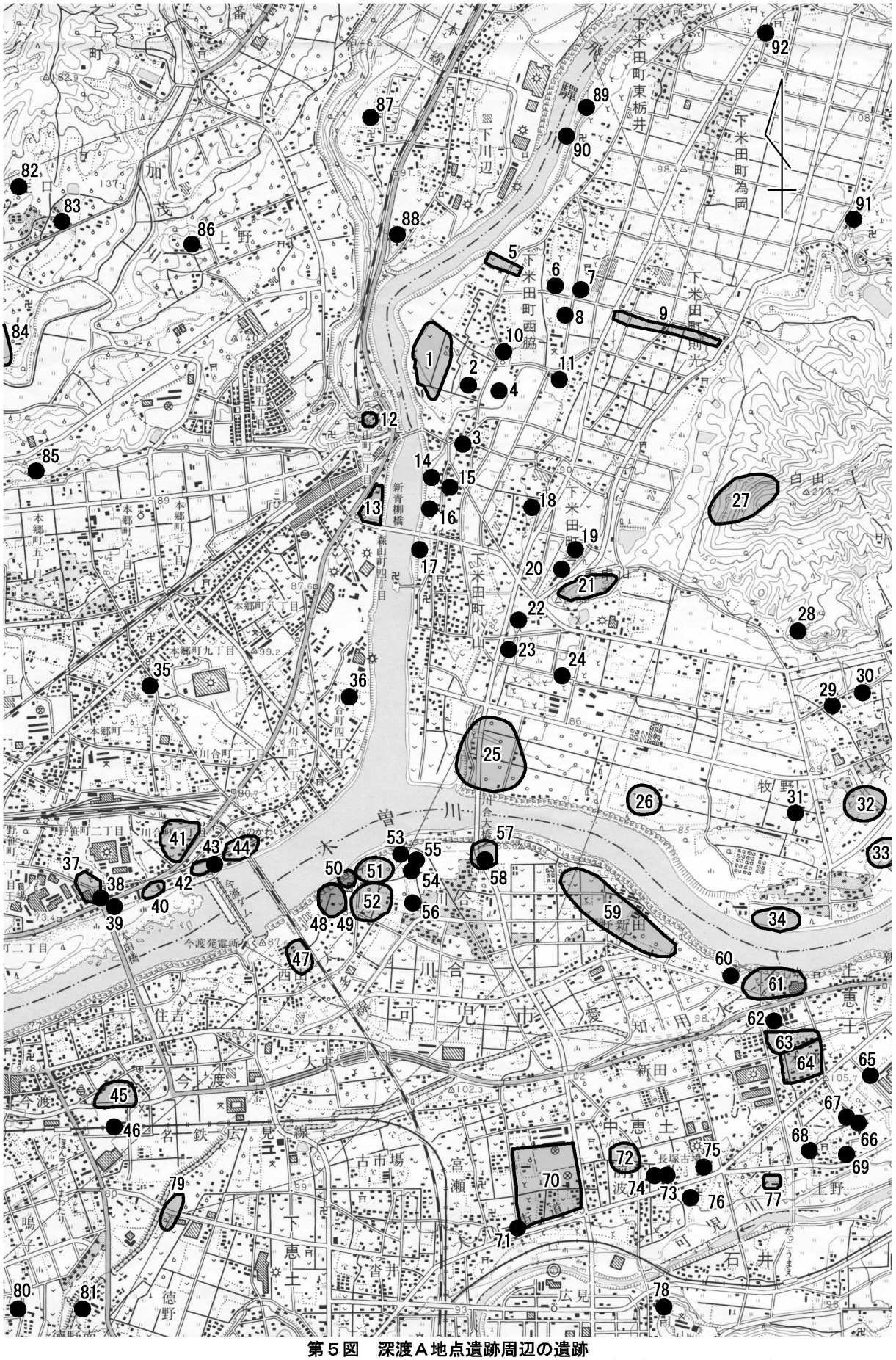
れている。

古墳時代から古代にかけて営まれた集落跡として、今遺跡(18)、牧野小山遺跡、針田遺跡（５）などがあげられる。今遺跡では古墳時代後期から奈良時代にかけての竪穴住居跡37軒が確認されている。牧野小山遺跡では４世紀末～９世紀の竪穴住居跡39軒、掘立柱建物跡３棟を確認している。また、土師器甕は各時期を通して出土し、変遷をたどることのできる良好な資料である。針田遺跡では古墳から平安時代の竪穴住居跡50軒を確認し、竪穴住居跡を中心に500点近い製塩土器が出土している。

中世以降の遺跡では、当遺跡（１）のほか為岡遺跡、牧野小山遺跡、野笹遺跡などがあげられる。当遺跡では平成14年度の本発掘調査において、中世の屋敷区画溝を確認している。為岡遺跡では14世紀の鍛冶関連遺構や中世以降と推定される土坑群が確認されている。牧野小山遺跡では、土坑墓、配石墓11基のほか８箇所の溝による区画を確認している。野笹遺跡では敷石・配石による堰、取水施設を伴う大溝を確認している。また、掘立柱建物跡３棟、方形土坑なども確認している。

第2表　周辺遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	時代	番号	遺　跡　名	時代
1	深渡A地点遺跡	縄文、弥生、中世～近代	47	西野遺跡	古墳
2	深渡B地点遺跡	弥生	48	青木神社前遺跡	縄文
3	深渡C地点遺跡	弥生	49	宮之脇古墳群	古墳
4	深渡D地点遺跡	弥生	50	川合宮之脇遺跡	縄文～中世
5	針田遺跡	縄文～中世	51	宮之脇東遺跡	古墳、古代、中世
6	東坪之内遺跡	弥生、古墳、中世	52	次郎兵衛塚古墳群	古墳
7	田中浦遺跡	弥生、古墳、中世	53	川合稲荷塚１号古墳	古墳
8	稲荷塚古墳	古墳	54	川合稲荷塚２号古墳	古墳
9	冨田清友遺跡	縄文、弥生、古墳、中世	55	川合稲荷塚３号古墳	古墳
10	中屋敷古墳	古墳	56	次郎兵衛塚１号墳	古墳
11	則光遺跡	縄文、弥生	57	川合遺跡	旧石器、縄文、弥生、古墳
12	牛ヶ鼻砦跡	中世	58	東畑古墳	古墳
13	下リ遺跡	縄文～近世	59	東野遺跡	縄文、弥生、古墳
14	長福北遺跡	古墳	60	狐塚古墳	古墳
15	長福遺跡	弥生	61	長畑古墳群	古墳
16	長福古墳	古墳	62	浦畑古墳	古墳
17	小山観音北遺跡	弥生	63	浦畑遺跡	中世、近世
18	今遺跡	弥生、古代	64	上恵土城跡	中世
19	坂下１号古墳	古墳	65	上恵土本郷古窯跡	古代
20	坂下２号古墳	古墳	66	桐野１号古墳	古墳
21	馬串砦跡	中世	67	桐野２号古墳	古墳
22	廻間１号古墳	古墳	68	上野稲荷古墳	古墳
23	廻間２号古墳	古墳	69	山神古墳	古墳
24	下牧野古墳	古墳	70	可児工業高校南遺跡	縄文、中世
25	牧野小山遺跡	縄文～中世	71	清水経塚古墳	古墳
26	岐大農場遺跡	縄文	72	中恵土新屋敷遺跡	縄文
27	白山山頂古墳群	古墳	73	野中古墳	古墳
28	白山古墳	古墳	74	野中西古墳	古墳
29	火塚古墳	古墳	75	長塚古墳	古墳
30	トヤノ下古墳	古墳	76	西寺山古墳	古墳
31	小貝戸２号古墳	古墳	77	欠之上遺跡	縄文～中世
32	小貝戸遺跡	縄文、弥生	78	村出古墳	古墳
33	神明遺跡	縄文、弥生	79	藤田坂遺跡	縄文、弥生
34	花之下遺跡	古代、中世	80	鳴子東遺跡	縄文
35	切通遺跡	弥生、古墳	81	徳野陣屋跡	近世
36	川合東遺跡	弥生	82	火塚古墳	古墳
37	野笹遺跡	縄文～中世	83	佐口遺跡	古墳、古代、中世
38	赤池４号古墳	古墳	84	木ノ下遺跡	古代、中世
39	亀淵古墳	古墳	85	元禅隆寺跡	近世
40	赤池古墳群	古墳	86	小陣出遺跡	縄文、古代
41	川合川端遺跡	縄文、弥生、古墳	87	高山代官所下川辺役所跡	近世
42	川合西古墳群	古墳	88	天池古墳	古墳
43	川合二ツ塚遺跡	縄文	89	光徳寺北遺跡	弥生
44	川合西遺跡	弥生	90	光徳寺古墳	古墳
45	今渡遺跡	縄文～中世	91	須後五輪塔	中世
46	今渡金屋遺跡	近世	92	為岡遺跡	縄文～中世



第５図　深渡Ａ地点遺跡周辺の遺跡

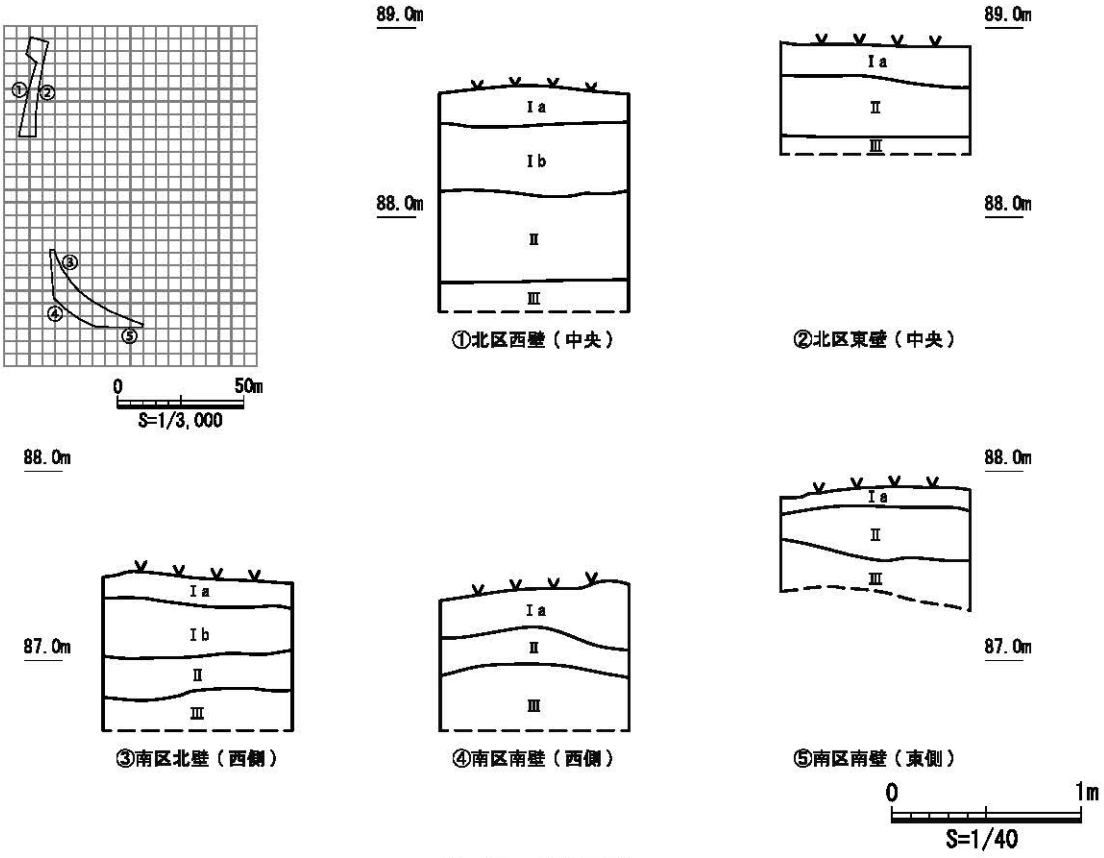
（国土地理院発行の２万５千分の１地形図「美濃加茂」を使用した。遺跡の位置や範囲は岐阜県遺跡管理GISをもとに転記した。）

第３章　調査の成果

第１節　基本層序

当遺跡は、飛騨川が形成する河岸段丘上に位置する。現耕作面は段丘上の平坦面であるものの、東から西(飛騨川方面)へ、そして北から南(木曽川方面)へ向かって緩傾斜地となっている。調査区周辺は畑地として利用されており、人為的な削平を受けている部分が認められるが、地山面も西側及び南側へ向かって低くなっている。今回の調査地点は段丘の端部に当たり、北区においては地山面で約50㎝ほどの段差が認められ、調査区北部及び東部が高位の平坦面となっている。調査区北部の高位平坦面は、前回調査区へと続く。また、東部の高位平坦面はより遺跡の中心部分に広がっていくものと考えられる。南区においては北区のような明瞭な段差は認められないが、東から西、北から南へ向かって緩やかに低く傾斜している。

基本層序は、Ⅰ層からⅢ層に分層した。平成14年度調査ではⅠ層からⅢ層に分層しており、色調などに違いはあるものの、基本的に対応した堆積状況となっている。前回調査では確認していない盛土層に関しては、当調査で現代の耕作地拡幅に伴う盛土層とらえ、Ⅰ層と関連づけて細分した(第３表)。なお、前回調査同様遺構はⅢ層上面で検出している。



第６図　基本層序

第3表　基本層序対応表

平成22年度		平成14年度		性格
層位	土質等	層位	土質等	
Ⅰａ層	砂質シルト(にぶい黄褐色、10YR5/4)	Ⅰ層	砂質土(黒褐色、10YR3/2)	現代耕作土
Ⅰｂ層	砂質シルト(にぶい黄橙色、10YR6/4)	－	－	盛土
Ⅱ層	砂質シルト(暗褐色、10YR3/3)	Ⅱ層	砂質土(オリーブ褐色、2.5Y4/3)	遺物包含層
Ⅲ層	砂質シルト(明黄褐色、10YR6/6)	Ⅲ層	砂質土(黄褐色、2.5Y5/4)	地山

以下、基本層序のⅠ層から順に説明する。

Ⅰa層(10ＹＲ５/４　にぶい黄褐色土)：表土層

現代の畑の耕作土。砂質シルトでややしまっており、粘性もややある。

Ⅰb層(10ＹＲ６/４　にぶい黄橙色土)：盛土層

北区西側及び南区北西側に限定的に認められる。地山面の標高が低い部分にのみ認められる。段丘段差の低い部分に盛土を行い、現耕作面をより広く活用するための盛土と考えられる。明治時代に作成された当遺跡が所在する廣末・中屋敷地区の地籍図によると、明治期の地境は現在と異なっている((財)岐阜県教育文化財団文化財保護センター2004、本報告書でも第４章に再掲)。このことから盛土は明治以降の施工と考えられる。なお、土層中にはビニール袋が混入しており、遺物はほとんど認められない。砂質シルトでややしまっており、粘性もややある。前回調査では、調査区の位置は平坦面上で段丘段差にはかからない。このため段差を埋めるために盛土を行う必要がなかったと考えられ、Ⅰb層に対応する盛土層は確認していない。

Ⅱ層(10ＹＲ３/３　暗褐色土)：遺物包含層

遺物包含層であるが、含まれる遺物は多くない。少ない包含遺物の中では中世後期に属する遺物の比率が高い。砂質シルトでややしまっており、粘性もややある。なお、前回調査時の遺物包含層(Ⅱ層)は縄文時代から現代にかけての遺物を包含している。

Ⅲ層(10ＹＲ６/６　明黄褐色土)：段丘堆積層(地山)

飛騨川の段丘堆積層である。北区、南区とも調査区全面に堆積している。砂質シルトでややしまっており、粘性もややある。遺物は確認できず、地山層と考えられる。前回調査でも同様の堆積(Ⅲ層)を地山としている。遺構はⅢ層上面で確認している。北区や南区の東側ではⅡ層との境界が明瞭であるが、南区の西側では土壌化によりⅢ層との境界が不明瞭となっている。境界が明瞭な部分は人為的な削平を受けたものと考えられる。なお、南区、北区ともⅢ層上面から調査区東側で１ｍ、西側で50㎝程度下で径10～30㎝の人頭大円礫を多く含む礫層となる。この礫層も飛騨川の段丘堆積層と考えられる。

第２節　遺構・遺物の概要

１　遺構の概要

今回の調査区は段丘崖にかかった遺跡の西端だったことから、建物跡など性格の明確な遺構は確認できなかった。また、確認した遺構の総数は136基で、内訳は土坑111基、溝跡21条、集石遺構４基である。前回の調査では、柵列・石列５箇所、溝跡33条、土坑87基、竪穴状遺構４箇所、小穴201基、

性格不明遺構１箇所を確認している。

北区は前回調査の７区と連続した調査区であるため、７区で確認した遺構と連続する遺構が存在する可能性を考慮していた。しかし、今回の調査でその続きが確認される可能性が最も高いと思われたＳＤ32（14年度調査における遺構番号）に連続する遺構は確認できなかった。

今回の調査では遺物が出土しなかった遺構がほとんどであった。各遺構の概要は次のとおりである。

（１）溝跡（ＳＤ）

平面形が細長い溝状をなす遺構を溝跡とした。北区で９条、南区で12条を確認した。

（２）土坑（ＳＫ）

地面に掘られた穴全般を土坑とした。なお、溝跡及び集石遺構は除外している。北区で32基、南区で79基を確認した。

（３）集石遺構（ＳＩ）

下部土坑の存在（掘形の有無）にかかわらず、人為的に石を集積した遺構を集石遺構とした。南区で４基を確認した。

２　遺構一覧表について

（１）平面形状・底面形状

堀形の上端における形状を平面形状、下端における形状を底面形状とした。円形・楕円形を「ａ」、方形・長方形を「ｂ」、それ以外の不定形なものを「ｃ」とした。

（２）堆積状況

単層のものを「ａ」、複層のものを「ｂ」とした。

（３）断面形状

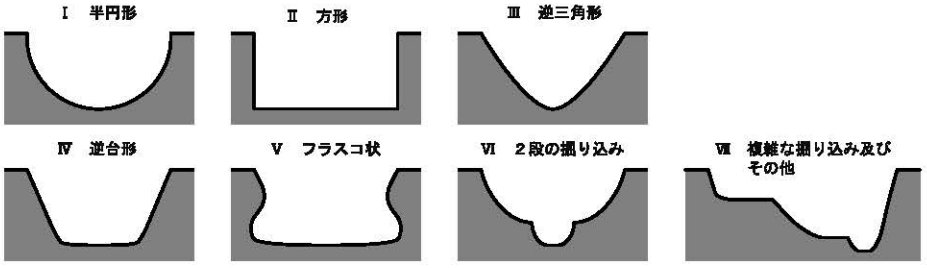
半円形を「Ⅰ」、方形を「Ⅱ」、逆三角形を「Ⅲ」、逆台形を「Ⅳ」、フラスコ状を「Ⅴ」、２段の掘り込みを「Ⅵ」、複雑な掘り込み及びその他を「Ⅶ」とした（第７図）。

（４）所属時期

原則として、遺構出土遺物のうち、最も新しい遺物の時期によって遺構の所属時期とした。

３　遺物の概要

深渡Ａ地点遺跡で出土した遺物の総点数は73点である。出土遺物のうち、遺構内出土遺物が21点、包含層出土遺物が52点である。また、土器・陶磁器類71点、石器類２点で、土器・陶磁器類の内訳は、須恵器３点、土師器11点、灰釉陶器１点、山茶碗39点、古瀬戸４点、大窯２点、近世陶器７点、磁器



第７図　遺構断面形状分類図

第４表　遺物出土点数

出土遺物		出土区分								合計	
		遺構内				包含層					
		北区	南区	小計	割合(%)	北区	南区	小計	割合(%)	点数	割合(%)
土器・陶磁器類	須恵器	1	0	1	1.37%	1	1	2	2.74%	3	4.11%
	土師器	1	6	7	9.59%	4	0	4	5.48%	11	15.07%
	灰釉陶器	0	0	0	0.00%	1	0	1	1.37%	1	1.37%
	山茶碗	5	2	7	9.59%	30	2	32	43.84%	39	53.42%
	古瀬戸	1	2	3	4.11%	1	0	1	1.37%	4	5.48%
	大窯	0	0	0	0.00%	1	1	2	2.74%	2	2.74%
	近世陶器	0	0	0	0.00%	6	1	7	9.59%	7	9.59%
	磁器	0	0	0	0.00%	1	1	2	2.74%	2	2.74%
	瓦	1	1	2	2.74%	0	0	0	0.00%	2	2.74%
石器	打製石斧	0	0	0	0.00%	1	0	1	1.37%	1	1.37%
	ＭＦ	0	1	1	1.37%	0	0	0	0.00%	1	1.37%
合計		9	12	21	28.77%	46	6	52	71.23%	73	100.00%

２点、瓦２点、石器の内訳は打製石斧１点、ＭＦ[1]１点である(第４表)。

前回の調査では、土器・陶磁器2,611点、土製品５点、石器・石製品165点、金属製品32点、銭貨７点、木製品14点が出土している。内訳をみると、土器陶磁器類では、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、中世土師皿、山茶碗、輸入磁器、古瀬戸、瀬戸美濃大窯、瀬戸美濃連房、常滑陶器、磁器、瓦器が、石器・石製品では、石核、円礫、ＲＦ、凹石、有肩扇状石器、磨石、打欠石錘、スクレイパー、打製石斧、砥石、石臼などが出土している。

本書では、実測可能な個体についてすべて掲載した。掲載点数は73点中29点である。

注

1)　マイクロフレイク。微細な剥離痕の認められる剥片。

第３節　北区の遺構と遺物

１　検出した遺構と遺構内出土遺物

ここでは北区で検出した遺構のうち、遺物の出土した溝跡５条、土坑１基について報告する。また、遺構内出土遺物は北区で９点出土しており、その中で４点を図示している(第11図)。

(１)溝跡(ＳＤ)

ＳＤ４(第８図、写真図版２)

位置・検出状況　調査区北部のＡＣ３グリッドで検出した。高位平坦面の段差の下側、低位面上で検出した。調査区北部の高位平坦面の周囲を北東から南西へ巡る。溝の北東側、南西側ともに調査区外へと続く。検出面では、こぶし大程度の川原石が面的に配されている状況を確認した。この配石から排水のための暗渠であったと考えられる。

形状と規模　長さ5.23m、幅約１m、深さ約0.15mである。断面形は不定型な部分も見られるがおおむね半円形を呈する。溝の勾配はほとんどないが、周囲の地形から高位平坦面の広がる北東から低位

段丘面の南西へ排水したものと考えられる。

出土遺物　配石の中から、古瀬戸瓶類（１）と山茶碗の碗（２）が出土している。古瀬戸瓶類は、内外面に灰釉が施される。山茶碗は大畑大洞４号窯式に比定される。

時期　出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

ＳＤ７（第９図）

位置・検出状況　調査区南部のＡＨ２、ＡＩ２グリッドで検出した。低位面上で検出した。溝の西側は調査区外へと続く。

形状と規模　長さ6.61m、幅約0.5m、深さ約0.2mである。断面形は逆台形を呈する。北西側が幅広くなっており、土坑状などの遺構と繋がっている可能性もある。溝の勾配はやや南に下がる。

出土遺物　山茶碗の碗１点、瓦片１点が出土している。山茶碗は大洞東１号窯式に比定される。瓦片は中世のものと思われる

時期　出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

ＳＤ１（第10図）

位置・検出状況　調査区北部のＡＢ３グリッドで検出した。高位面上で検出した。溝の北側は前回調査の７区へ続くが、７区の南端はトレンチとなっており、ＳＤ１は７区では確認できない。

形状と規模　長さ2.35m、幅約0.59m、深さ約0.09mである。断面形は浅い皿状を呈する。

出土遺物　土師器の小片が出土している。

時期　不明。

ＳＤ２（第10図、写真図版２）

位置・検出状況　調査区北部のＡＢ３グリッドで検出した。高位面上で検出した。溝の北側は前回調査の７区へ続くが、７区の南端はトレンチとなっており、ＳＤ１は７区では確認できない。

形状と規模　長さ2.35m、幅約0.59m、深さ約0.09mである。断面形は方形を呈する。埋土は西側では単層であるが、東側では斜めに４層に分かれる。この堆積状況から、上面が削平を受けている可能性が考えられる。

出土遺物　須恵器の坏身（４）の高台部分が出土している。

時期　出土遺物の時期から７～８世紀と考えられる。

ＳＤ９（第10図、写真図版２）

位置・検出状況　調査区南部のＡＩ３グリッドで検出した。高位平坦面上で検出した。溝の南東側は調査区外へ続く。

形状と規模　長さ3.57m、幅約0.56m、深さ約0.06mである。断面形は方形を呈する。平面形はＳＤ７とよく似ており、南東側が幅広くなっている。溝の勾配は高位平坦面側の南東側がやや高く、段差に近い北西側がやや低くなっている。

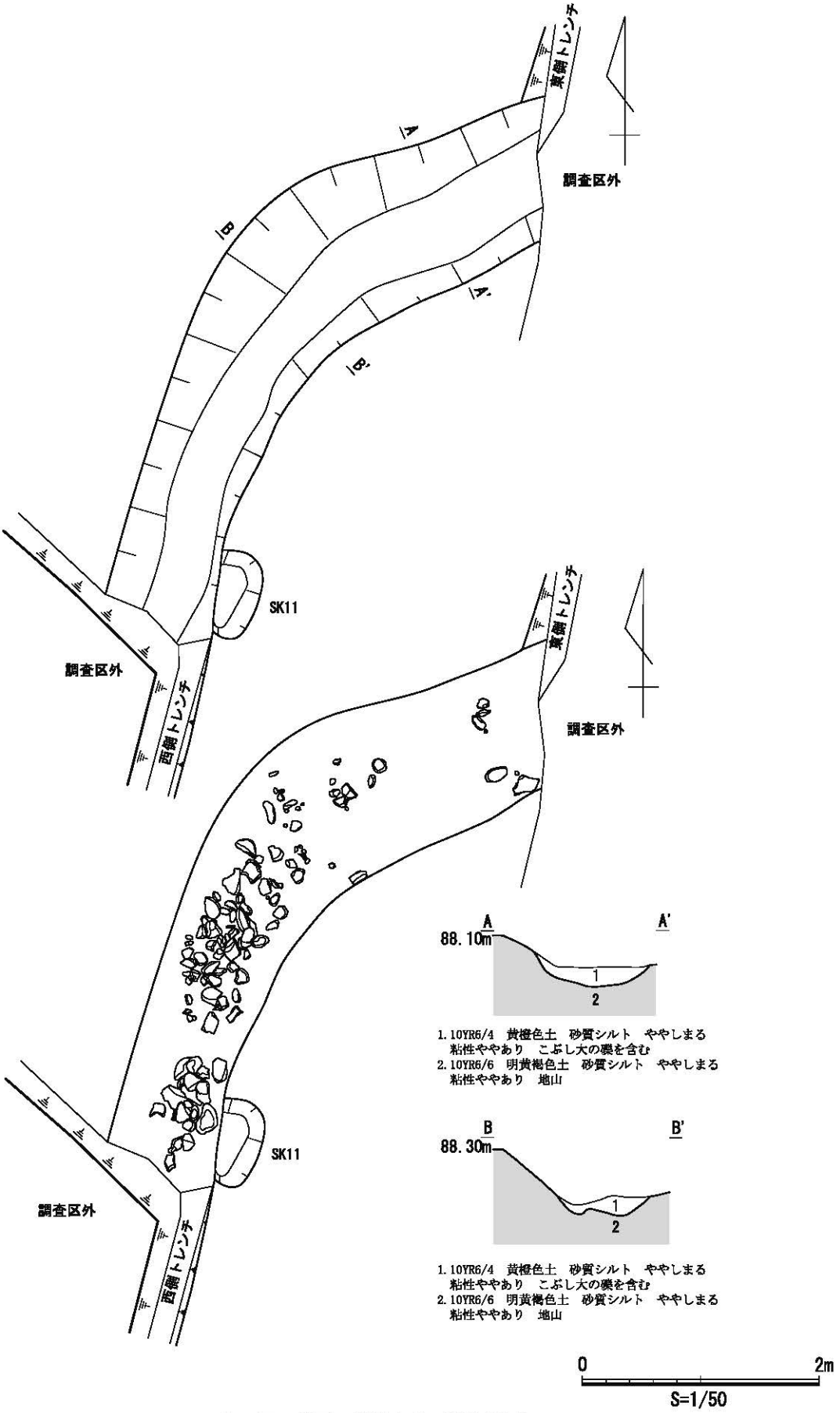
出土遺物　山茶碗の碗（３）が出土している。大谷洞14号窯式に比定される。

時期　出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

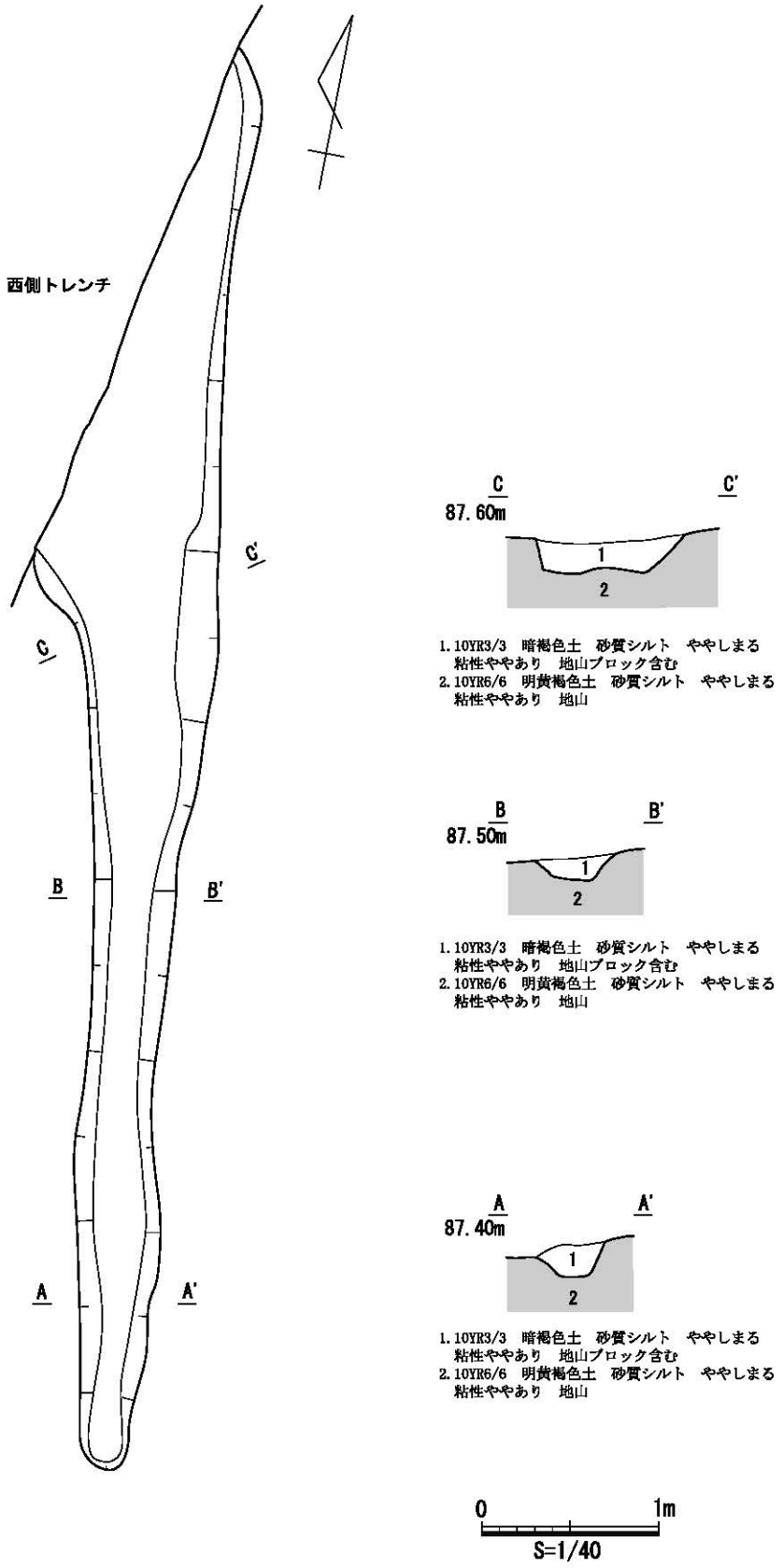
（２）土坑（ＳＫ）

ＳＫ35（第10図、写真図版２）

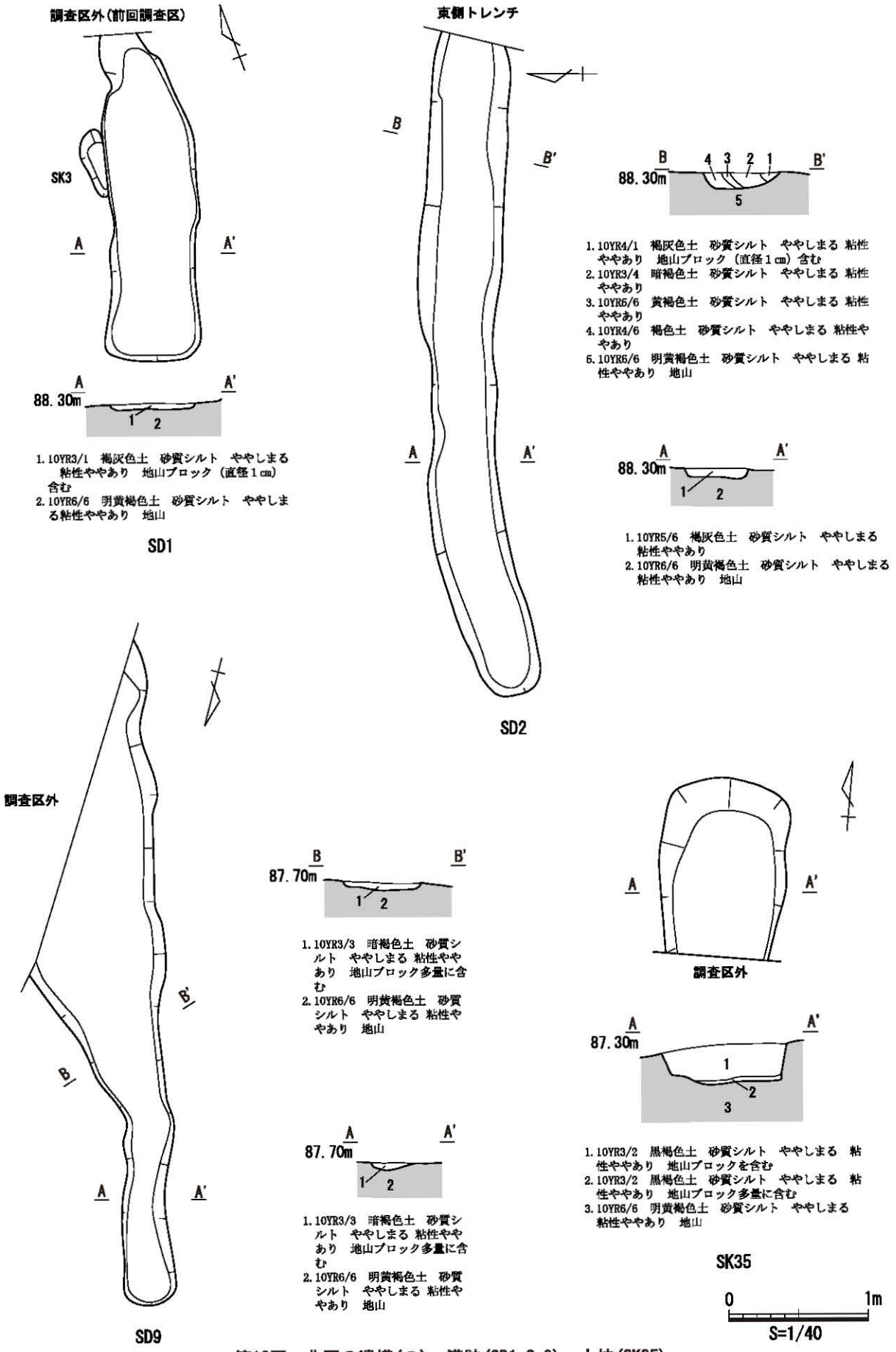
位置・検出状況　調査区南部のＡＩ２グリッドで検出した。高位面から低位面へと下がる段差中で検出



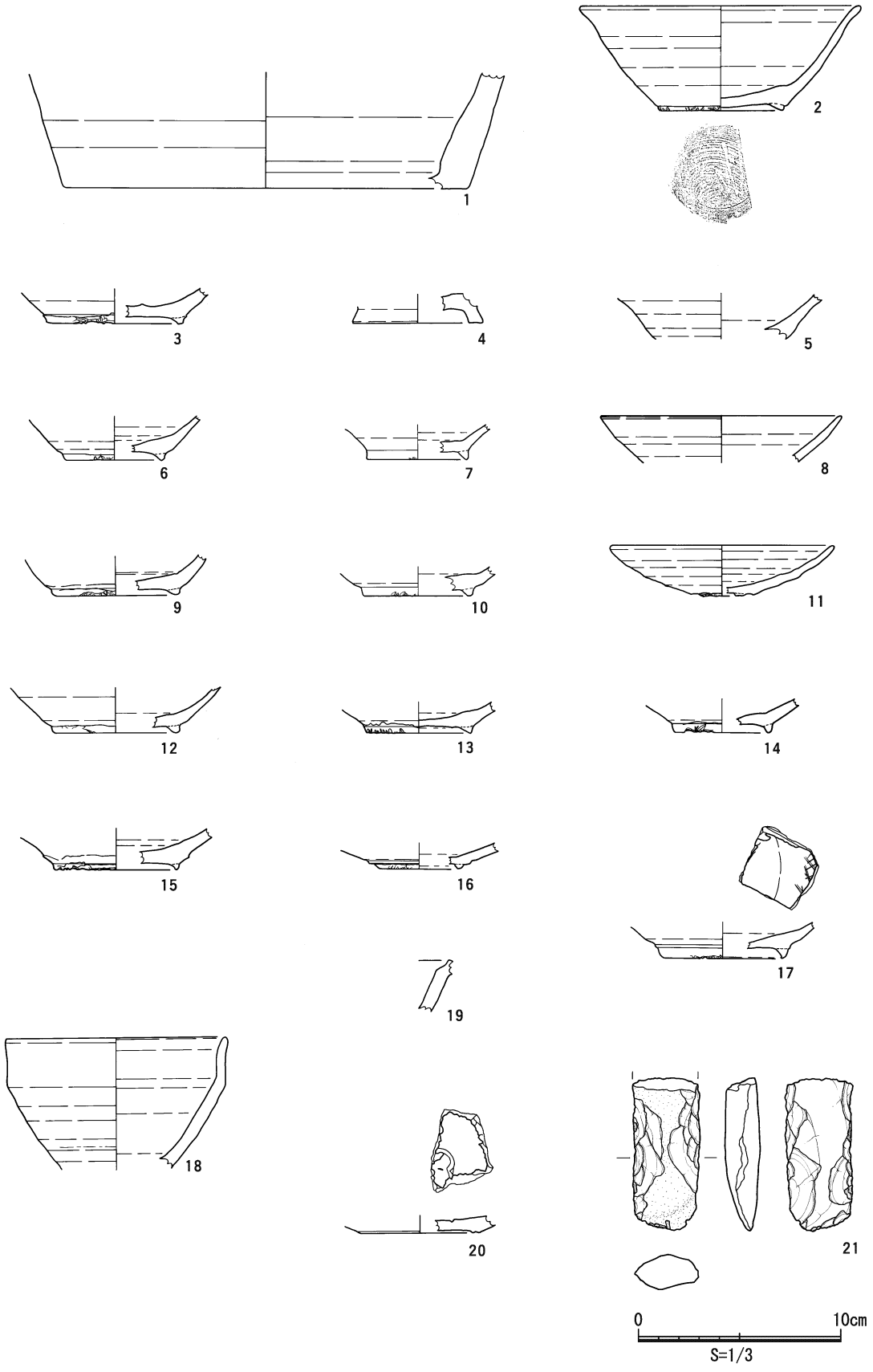
第８図　北区の遺構（１）・溝跡(SD4)



第９図　北区の遺構（２）・溝跡(SD7)



第10図　北区の遺構（３）・溝跡(SD1･2･9)・土坑(SK35)



第11図　北区出土の遺物

した。斜面上に掘り込まれている。このため北側では掘り込みが明瞭であるが、南側では上端と下端の比高差がなくなっている。南側は調査区外に続くが、調査区外では地山の標高がさらに下がるため、南側では掘り込みは確認できないものと考えられる。

形状と規模　長軸1.29m、短軸0.79m、深さ0.3mである。平面形は隅丸方形、断面形は方形を呈する。

出土遺物　山茶碗片２点が出土している。大洞東１号窯式に比定される。

時期　出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

２　包含層出土遺物

北区では包含層から46点の遺物が出土している。このうち17点を図示している。

（１）山茶碗（第11図５～17、写真図版５）

30点出土している。すべて東濃産の北部系山茶碗である。このうち時期の特定できるものは21点である。これらはすべて碗であり、明和１号窯式に比定されるもの２点、大畑大洞４号窯式に比定されるもの８点、大谷洞14号窯式に比定されるもの２点、大洞東１号窯式に比定されるもの２点である。他の９点は碗７点と皿２点である。いずれも小片で時期を特定できないが、大畑大洞４号窯式期以降に比定されると考えられる。

図示した山茶碗のうち、５と13は明和１号窯式に比定される碗で、13は小碗である。６、９、10、12、14、15、17は大畑大洞４号窯式に比定される碗である。このうち17は卸碗で、内面にオロシ目が確認できる。また、底部外面まで含めた外面全体に自然釉が付着しており、重ね焼きの最上段で蓋として焼成されたものと考えられる。７、８は大谷洞14号窯式に比定される碗、11、16は大洞東1号窯式に比定される碗である。

（２）古瀬戸（第11図19、写真図版５）

１点出土している。19は古瀬戸の盤類である。内外面に灰釉が施される。古瀬戸後期に比定される。

（３）大窯（第11図20、写真図版５）

１点出土している。20は丸皿である。内外面に鉄釉、内面底部には印花文が施される。高台はケズリ込み高台となっている。

（４）近世陶器（第11図18、写真図版５）

６点出土している。18以外は小片で時期を特定できない。18は天目茶碗である。内外面には鉄釉が施されているが、その鉄釉に灰釉を流している。土岐川以南の中馬系の窯によるものと考えられる。連房Ⅱ期に比定される。

（５）須恵器

１点出土しているが、小片で詳細は不明である。

（６）土師器

４点出土しているが、小片で詳細は不明である。

（７）灰釉陶器

１点出土している。壺の頸部と思われる破片が１点出土している。外面に自然釉が認められ、２次的な被熱を受けた痕跡がある。

（８）磁器

１点出土している。小片で詳細は不明である。

（９）打製石斧（第11図21、写真図版５）

１点出土している。ホルンフェルス製で基部が折損している。正面に原礫面を大きく残す。短冊形。

第４節　南区の遺構と遺物

１　検出した遺構と遺構内出土遺物

ここでは南区で検出した遺構のうち、遺物の出土した溝跡３条、土坑５基について報告する。遺物は出土していないが、人為的に礫を配した集石遺構についても報告する。また、遺構内出土遺物は南区で12点出土しており、その中で5点を図示している（第14図）。

（１）溝跡（ＳＤ）

ＳＤ17（第12図、写真図版３）

位置・検出状況　調査区中央部のＣＤ６グリッドで検出した。ＳＤ18とＳＤ19を切る形で掘り込まれている。検出時には埋土の色調の区別がつきにくく、セクションベルトを残して確認しながら一体として掘り下げた。その結果、全体を20cm程度掘り下げ、ＳＤ19の底がほぼ確認できた時点で切り合い関係を把握した。ＳＤ17は調査区を北から南へに延びるが、調査区の南側でほぼ直交して東へ向きを変え、さらに調査区南端で再び南へ向かうようである。

形状と規模　長さ11.7m、幅約1.9m、深さ約0.4mである。断面形は逆三角形を呈する。溝の勾配は北から南へ下がっている。

出土遺物　古瀬戸の平碗(22)と土師器の鉢４点が出土している。古瀬戸平碗は内外面に灰釉を施す。土師器鉢(26)は口縁部から胴部にかけて、鉢(27)は平底の底部の破片である。これらは接合しないため別々に図示したが、胎土、色調などから同一個体と考えられる。なお、第12図に出土地点を、ドット及び遺物番号で示している。

時期　出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

ＳＤ18（第12図、写真図版３）

位置・検出状況　調査区中央部のＣＤ8グリッドで検出した。ＳＤ17に切られ、ＳＤ19を切る形で掘り込まれている。ＳＤ17に切られているが残存している平面プランは、西から東へそして調査区南端で南に向かっており、ＳＤ17と同じような方向の溝と考えられる。ＳＤ17はＳＤ18を掘り直して構築した可能性もある。

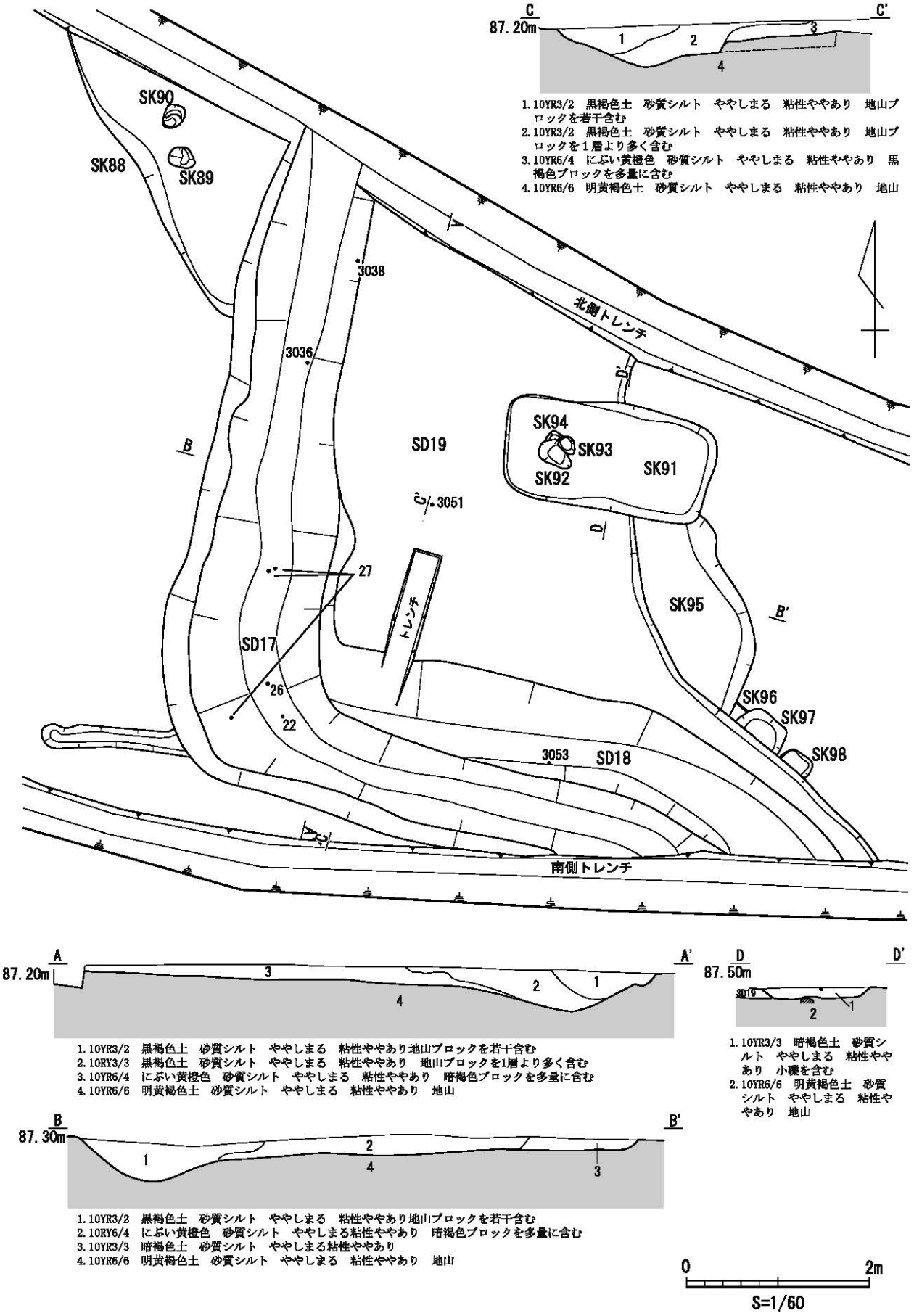
形状と規模　長さ5.45m、幅約0.7m、深さ約0.4mである。断面形は逆三角形を呈する。溝の勾配は西から東へ下がっている。

出土遺物　山茶碗の碗１点が出土している。山茶碗は生田２号窯式に比定される。なお、第12図に出土地点を、ドット及び遺物番号で示している。

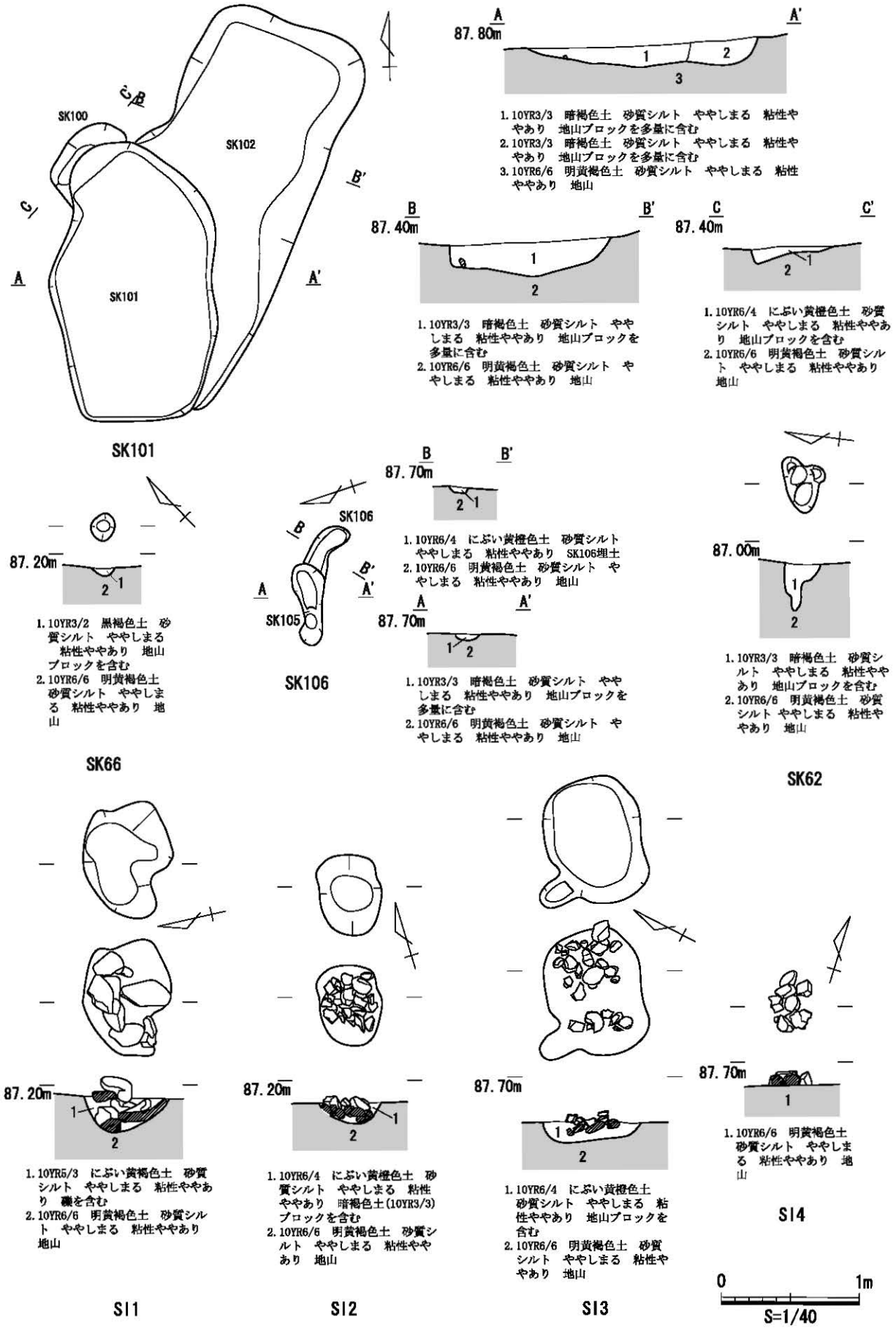
時期　出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

ＳＤ19（第12図、写真図版３）

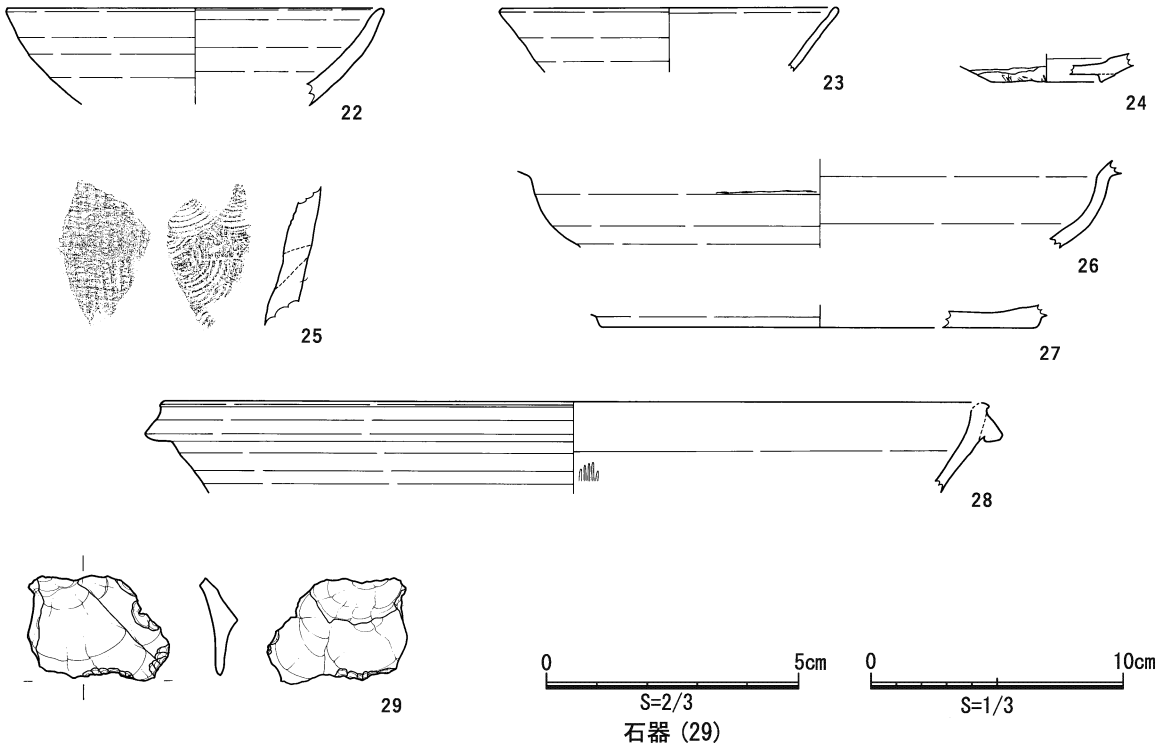
位置・検出状況　調査区中央部のＣＤ8グリッドで検出した。ＳＤ17、ＳＤ18に切られる形で掘り込まれている。ＳＤ17がＳＤ19の西端で切り合っているが、検出時の状況から西側の堀形はＳＤ19のも



第12図　南区の遺構（１）・溝跡(SD17･18･19)、土坑(SK91)



第13図　南区の遺構（２）・土坑(62・66・101・106)、集石遺構(SI1～4)



第14図　南区出土の遺物

のであると考えられる。ＳＤ17、ＳＤ19に比べ非常に浅い溝であるが、これらの溝と同様の方向の溝であったと考えられる。溝の底部では地山の土壌化が進んでおり、地山面に埋土の暗褐色の色調が転移している。

形状と規模　長さ4.4m、幅約3.2m、深さ約0.23mである。断面形は方形を呈する。

出土遺物　古瀬戸の平碗が1点出土している。古瀬戸平碗は内外面に灰釉を施す。なお、第12図に出土地点を、ドット及び遺物番号で示している。

時期　出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

（２）土坑（ＳＫ）

ＳＫ91（第12図、写真図版４）

位置・検出状況　調査区中央部のＣＤ9グリッドで検出した。ＳＤ19を切る形で掘り込まれている。ＳＫ91を完掘した段階でＳＫ92～94が確認され、これらの遺構もＳＫ91に切られている。

形状と規模　長軸2.28m、短軸1.10m、深さ0.12mである。平面形は隅丸方形、断面形は方形を呈する。

出土遺物　山茶碗の碗(23)が出土している。大洞東１号窯式に比定される。なお、第12図に出土地点を、ドット及び遺物番号で示している。

時期　出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

ＳＫ101（第13図）

位置・検出状況　調査区東部のＣＤ9、ＣＤ10グリッドで検出した。ＳＫ100、ＳＫ102を切る形で掘

り込まれている。

形状と規模　長軸2.02m、短軸1.18m、深さ0.15mである。平面形は隅丸方形、断面形は方形を呈する。

出土遺物　土師器の小片が出土している。

時期　不明。

ＳＫ66（第13図、写真図版４）

位置・検出状況　調査区西部のＣＢ６グリッドで検出した。

形状と規模　長軸0.19m、短軸1.18m、深さ0.05mである。平面形は円形、断面形は半円形を呈する。

出土遺物　下呂石製のＭＦ(29)が出土している。不規則な剥離が確認できる剥片である。

時期　縄文時代。

ＳＫ106（第13図）

位置・検出状況　調査区東部のＣＤ11グリッドで検出した。ＳＫ105に切られている。

形状と規模　長軸0.35m、短軸0.15m、深さ0.03mである。平面形は不定型な円形、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物　土師器の小片が出土している。

時期　不明。

ＳＫ62（第13図）

位置・検出状況　調査区西部のＣＢ５グリッドで検出した。

形状と規模　長軸0.42m、短軸0.15m、深さ0.33mである。平面形は不定型な円形、断面形は２段の掘り込みを呈する。

出土遺物　中世と思われる瓦片が出土している。

時期　中世。

（３）集石遺構（ＳＩ）

ＳＩ１（第13図、写真図版４）

位置・検出状況　調査区中央部のＣＢ６、ＣＢ７グリッドで検出した。検出段階で人頭大の川原石が露出していた。

形状と規模　長軸0.84m、短軸0.65m、深さ0.25mである。平面形は不定形な円形、断面形は逆三角形を呈する。他の集石遺構と比べるとかなり大きな人頭大の川原石が、不規則に詰め込まれている。

出土遺物　なし。

時期　不明。

ＳＩ２（第13図、写真図版４）

位置・検出状況　調査区西部のＣＣ６グリッドで検出した。検出段階でこぶし大の川原石が露出していた。

形状と規模　長軸0.58m、短軸0.45m、深さ0.15mである。平面形はだ円形、断面形は半円形を呈する。こぶし大の川原石が、堀形全体に詰め込まれている。被熱を受けた石も認められた。

出土遺物　なし。

時期　不明。

ＳＩ３（第13図）

位置・検出状況　調査区西部のＣＣ６グリッドで検出した。検出段階でこぶし大の川原石が露出していた。

形状と規模　長軸0.92m、短軸0.77m、深さ0.12mである。平面形はだ円形、断面形は半円形を呈する。こぶし大の川原石がまばらに詰め込まれているが、土坑下端とは接しておらず、ある程度土坑が埋まった段階で詰め込まれたと考えられる。被熱を受けた石も認められた。

出土遺物　なし。

時期　不明。

ＳＩ４(第13図)

位置・検出状況　調査区東部のＣＤ11グリッドで検出した。検出段階でこぶし大の川原石が確認できたため、石を残して検出した。下部の掘り込みは認められなかった。

形状と規模　集石の範囲は長軸0.43m、短軸0.27mである。堀形は持たないが、周囲には通常石が認められないため、集石遺構と考えている。川原石が10個程度寄せ集められている。

出土遺物　なし。

時期　不明。

２　包含層出土遺物

南区では包含層から６点の遺物が出土している。このうち３点を図示している。

(１)山茶碗(第14図24、写真図版４)

２点出土している。いずれも碗である。24は底部の破片で大洞東１号窯式に比定される。

(２)須恵器(第14図25、写真図版４)

1点出土している。25は甕の胴部の破片で内外面にタタキ目が確認できる。

(３)大窯(第14図28、写真図版４)

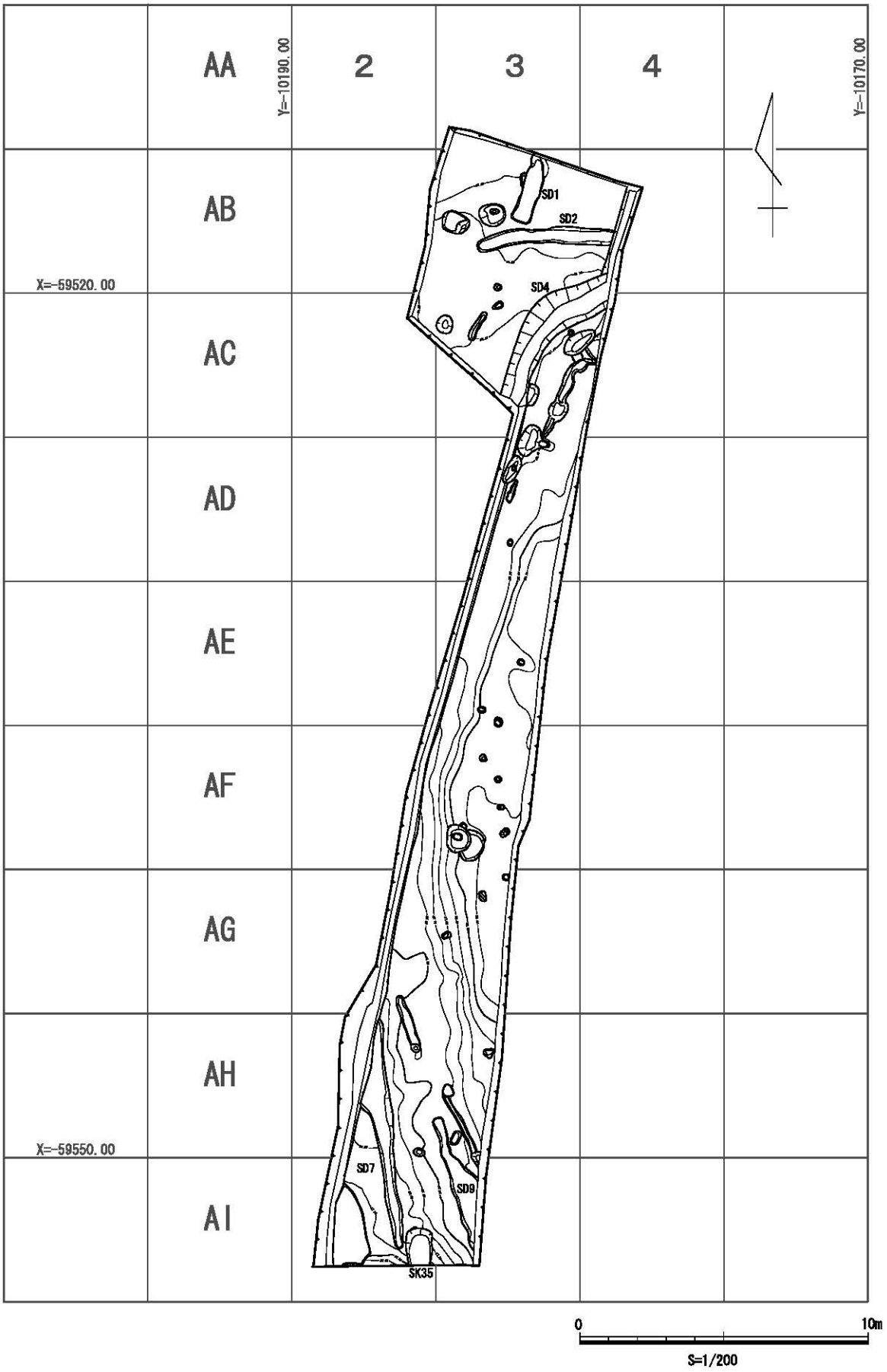
１点出土している。28は擂鉢である。内外面に鉄釉が施される。

(４)近世陶器

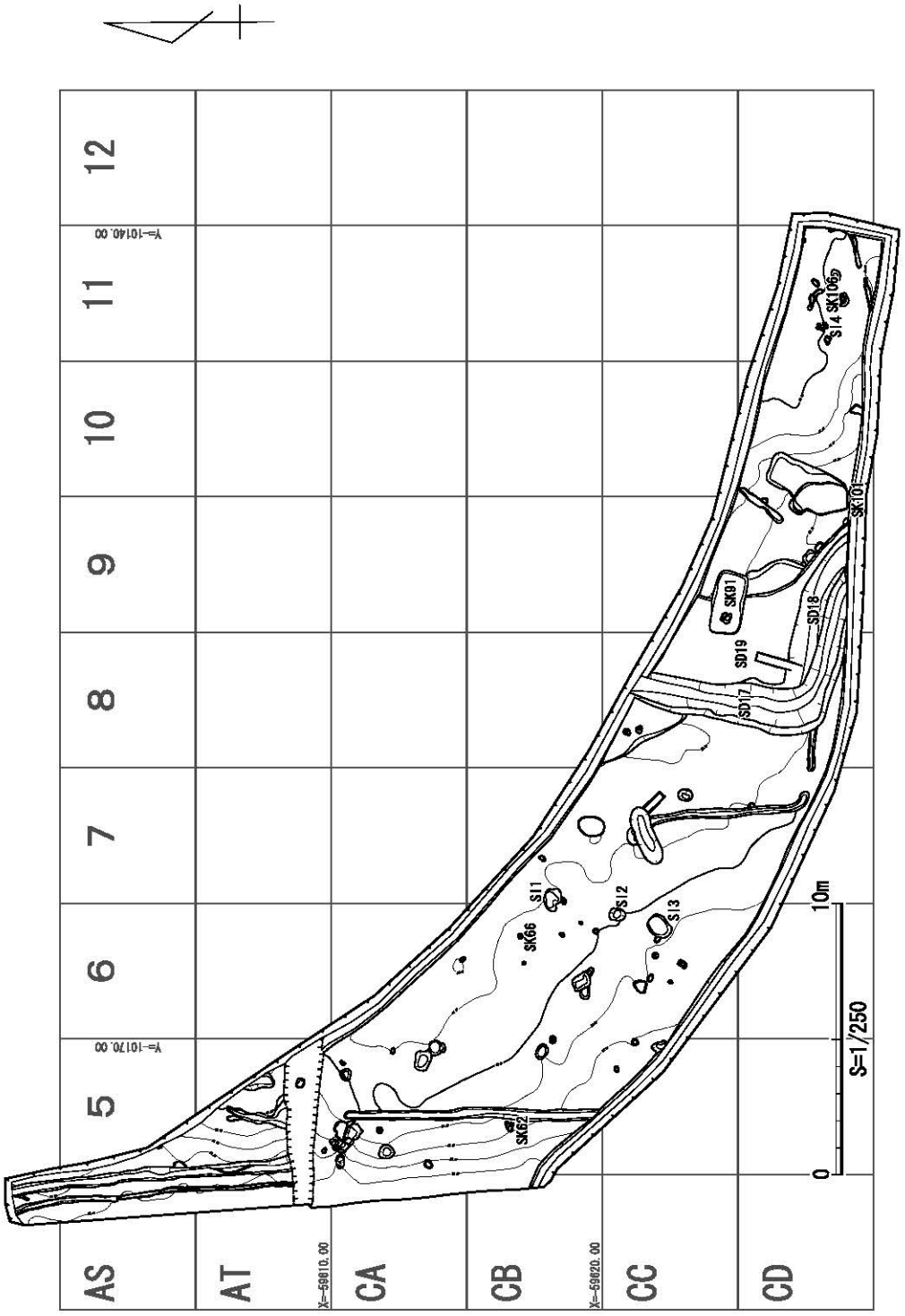
１点出土している。小片で詳細は判明しないが、呉須が施されている。

(５)磁器

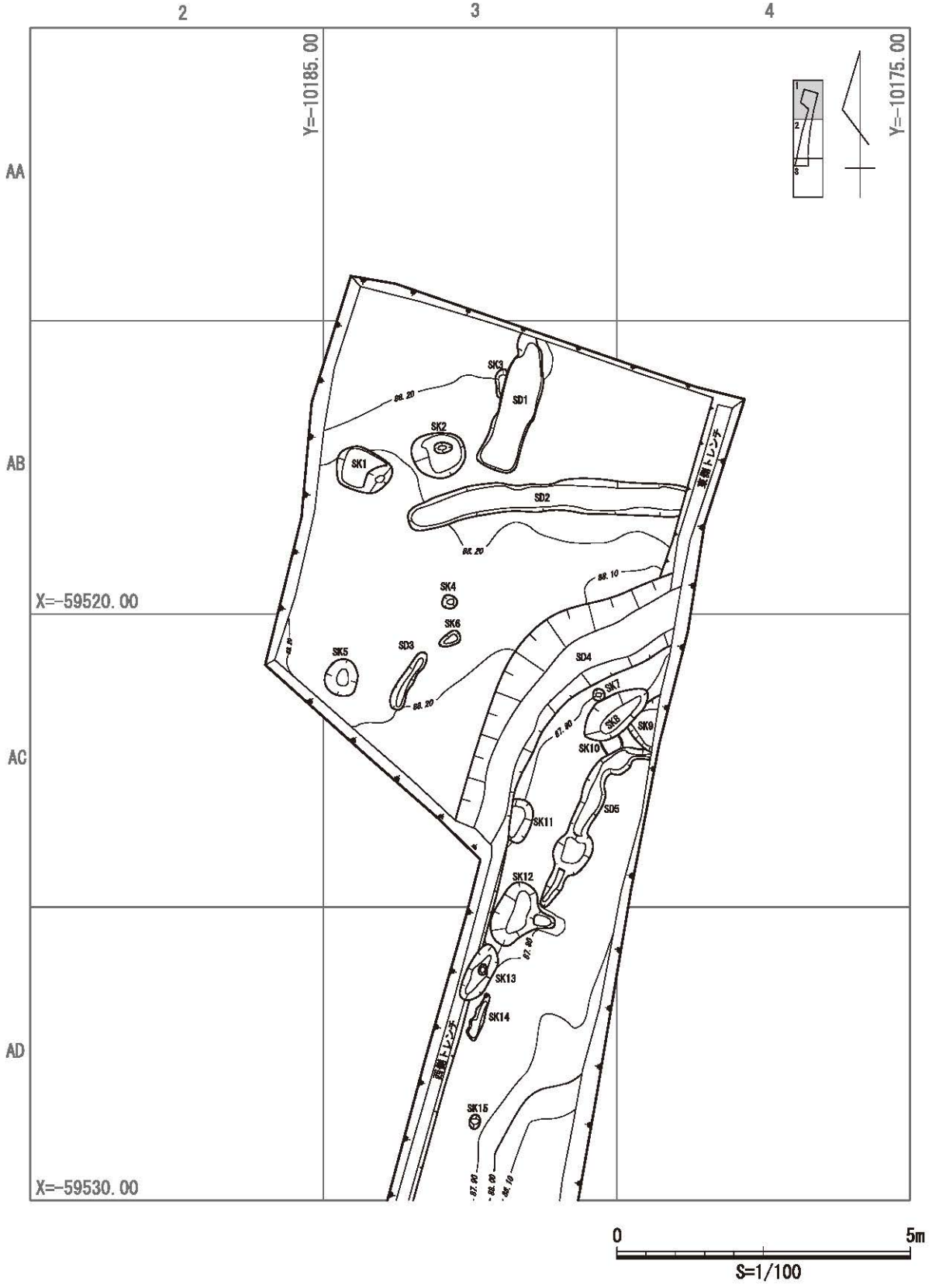
１点出土している。小片で詳細は不明である。



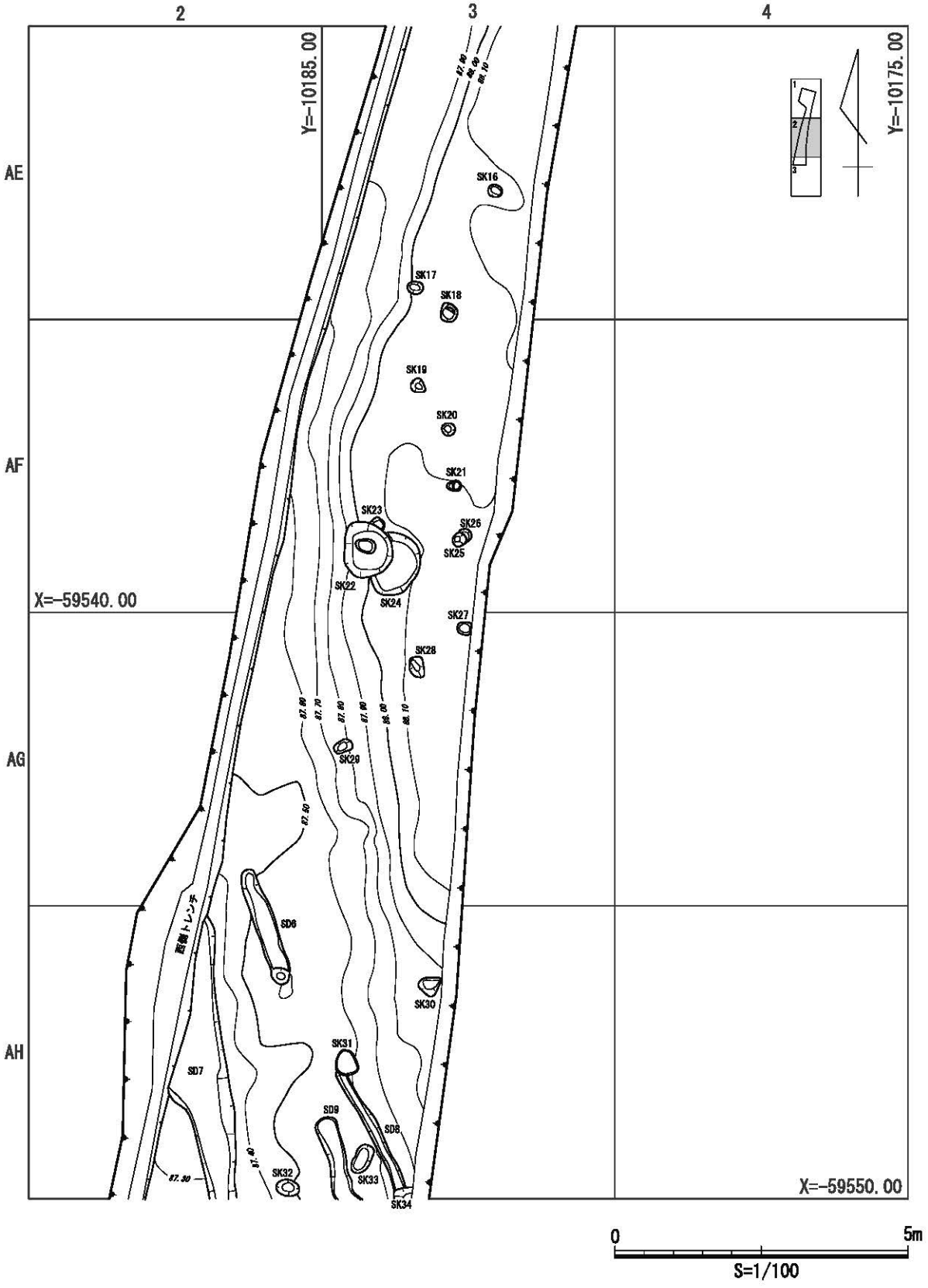
第15図　調査区全体図(北区)



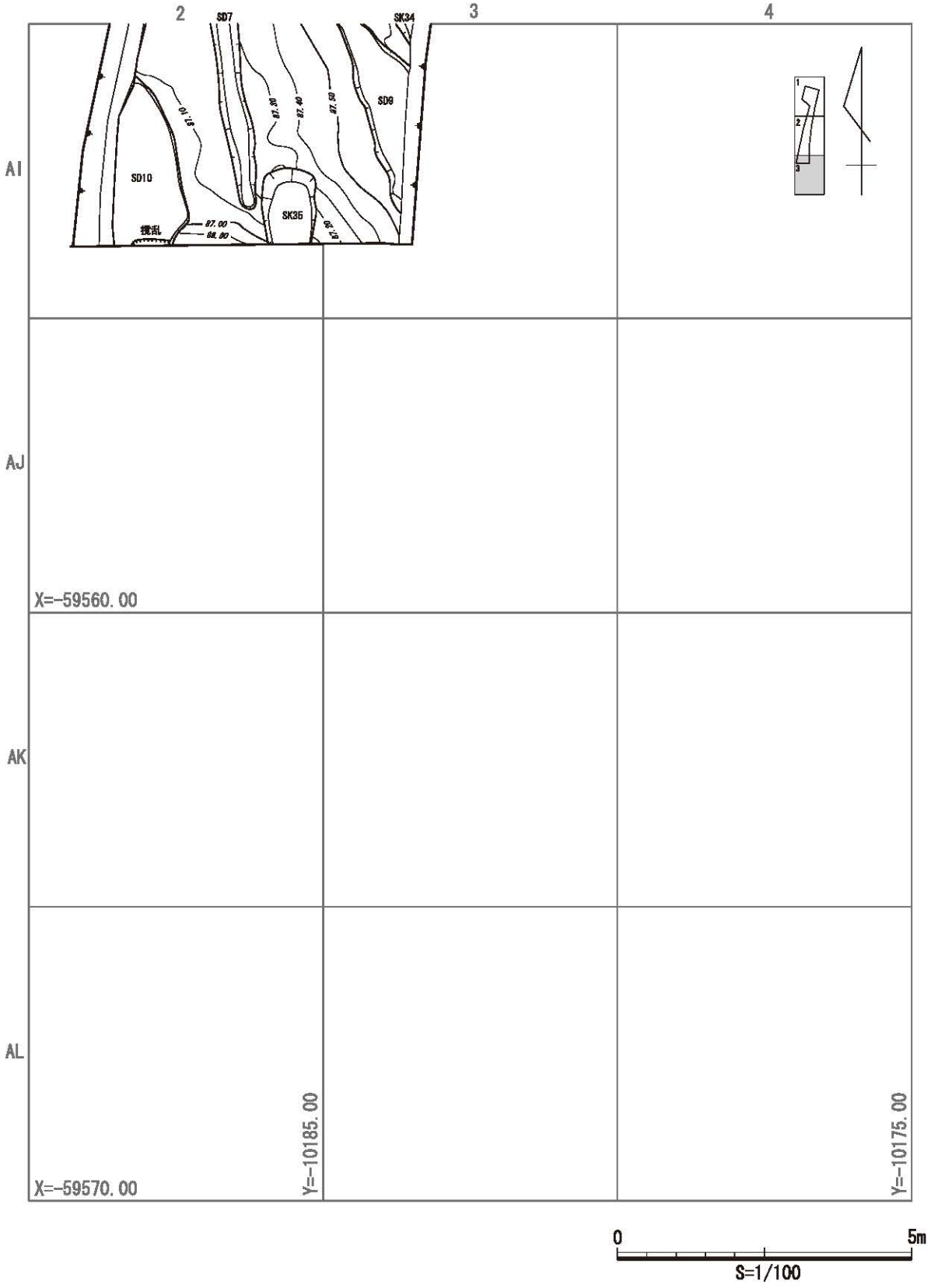
第16図　調査区全体図（南区）



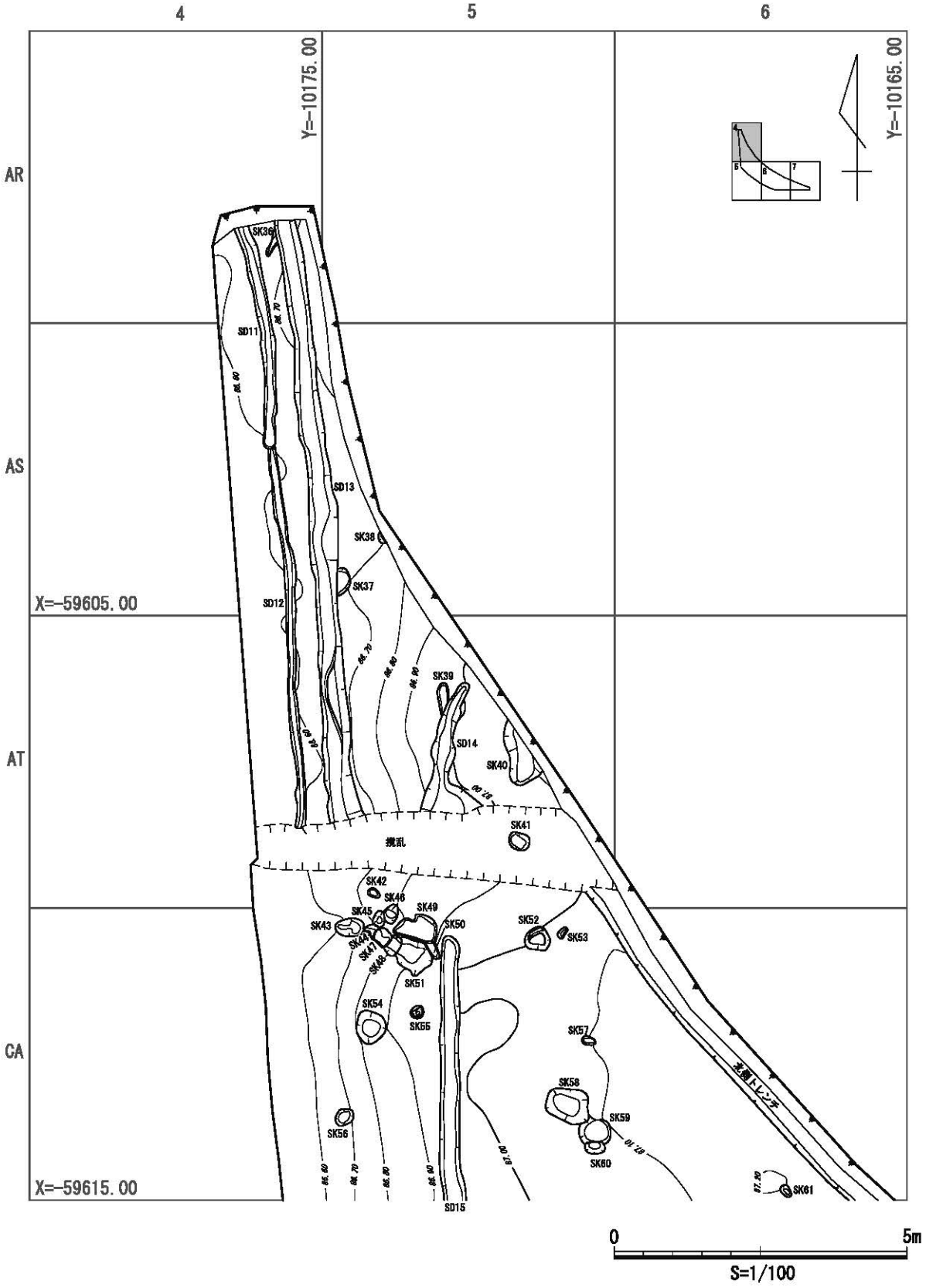
第17図　調査区分割図１



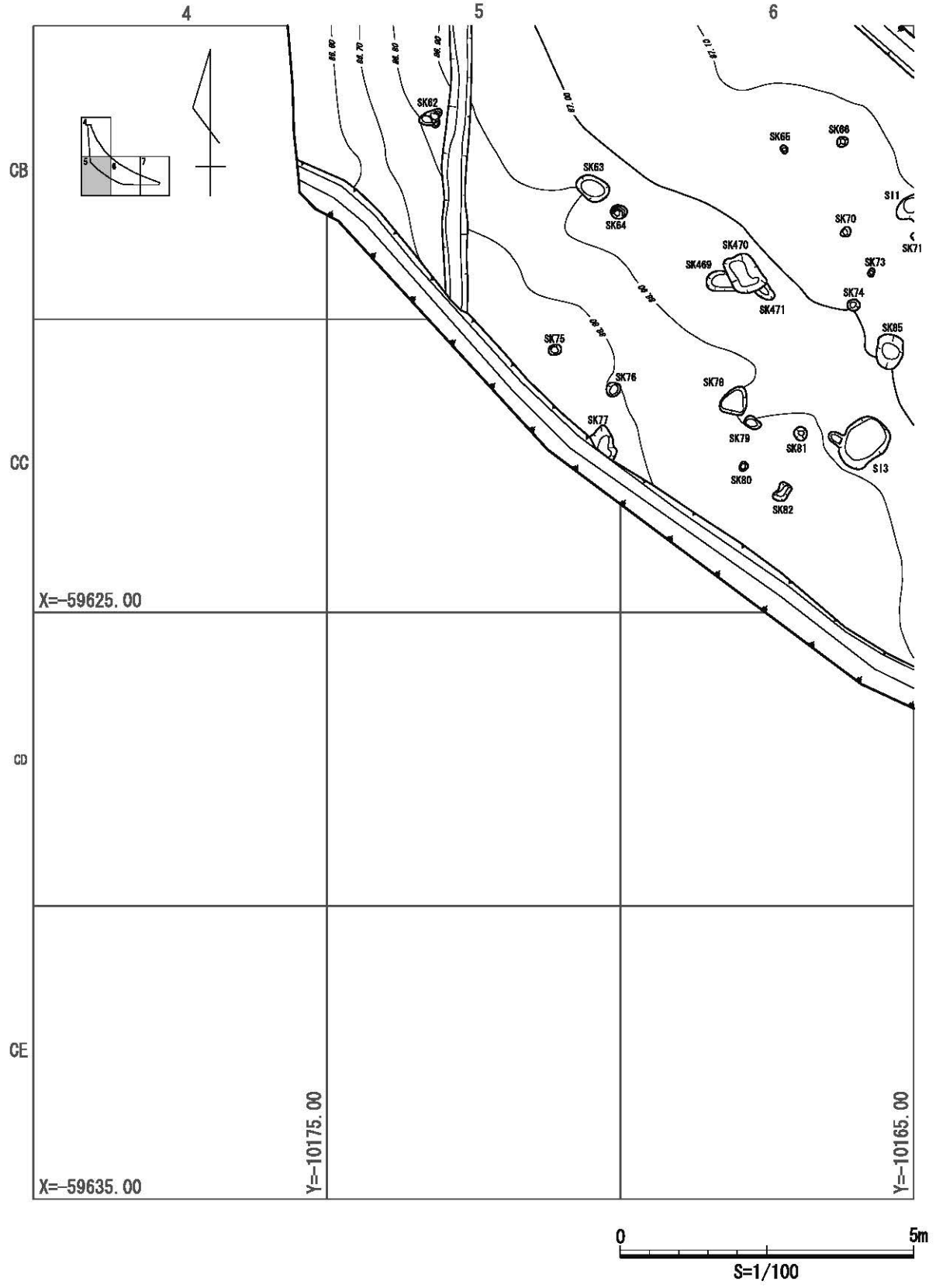
第18図　調査区分割図２



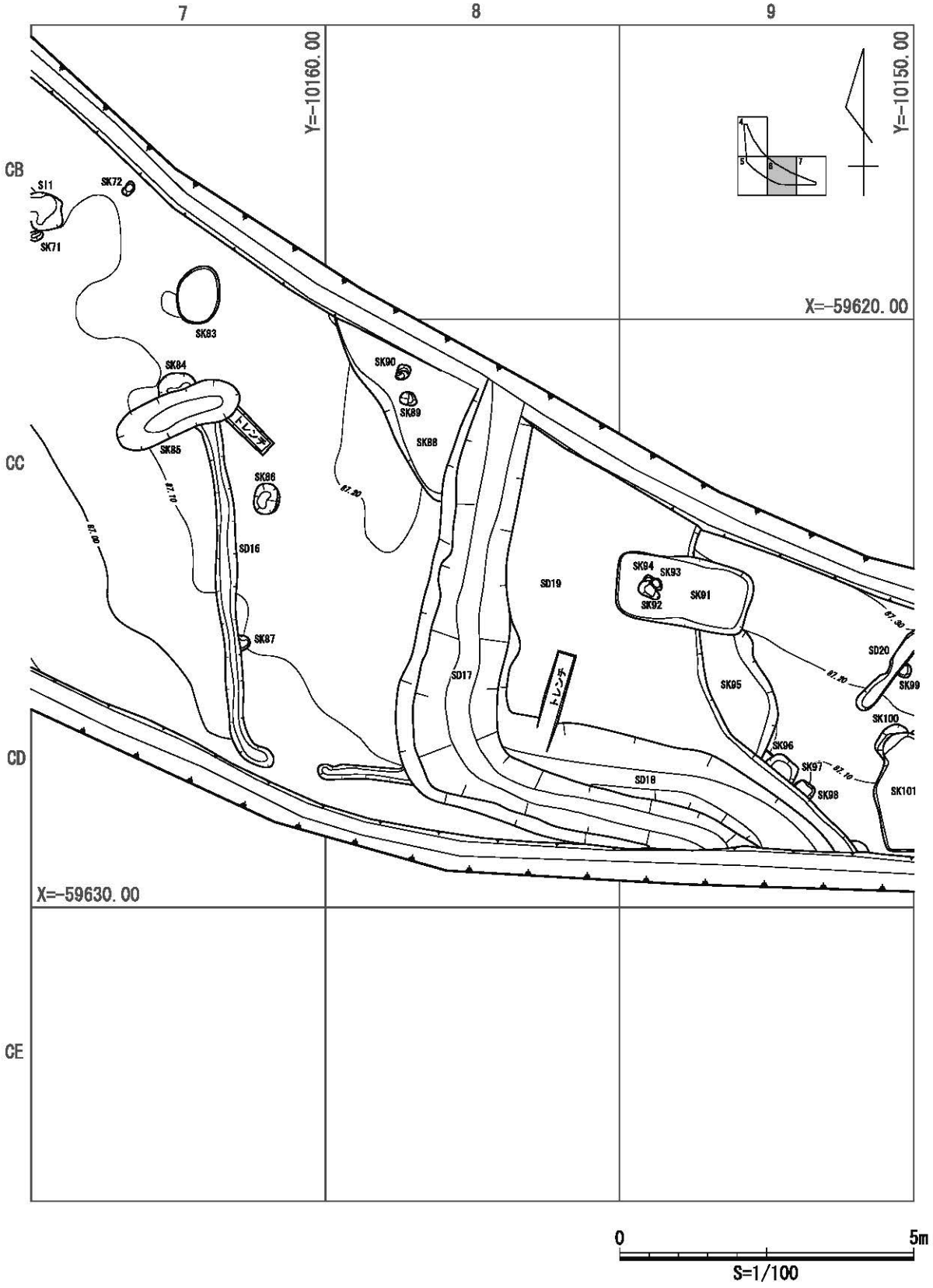
第19図　調査区分割図３



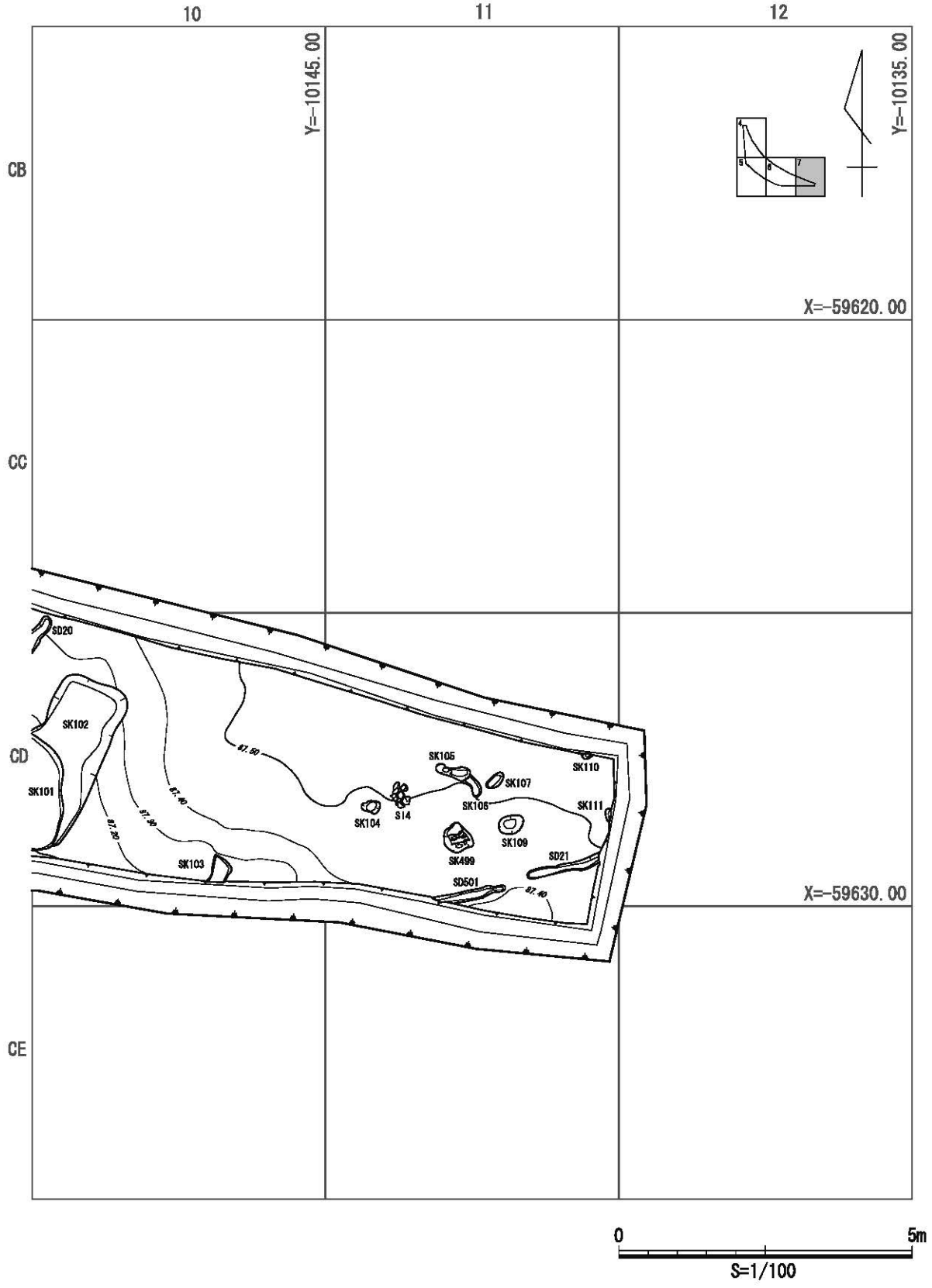
第20図　調査区分割図４



第21図　調査区分割図５



第22図　調査区分割図６



第23図　調査区分割図７

第5表　遺構一覧表(1)

遺構番号	登録番号	地区	グリッド		検出面	平面形状	底面形状	堆積状況	断面形状	大きさ（m）					重複関係		所属時期
			南北	東西						上端		下端		深さ	＜（切られる）	＞（切る）	
										長軸	短軸	長軸	短軸				
SD1	404	北区	AB	3	Ⅲ上	c	c	a	Ⅱ	(2.35)	0.59	2.2	0.52	0.09		SK3	
SD2	405	北区	AB	3-4	Ⅲ上	c	c	b	Ⅳ	(4.72)	0.45	(4.7)	0.34	0.06			
SD3	549	北区	AC	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	1.09	0.22	0.89	0.07	0.05			
SD4	445	北区	AC	3	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	(5.23)	1.08	(5.23)	0.63	0.14		SK11	大畑大洞４
SD5	407	北区	AC	3-4	Ⅲ上	c	c	a	Ⅲ	(3.42)	0.33	(3.45)	0.15	0.1	SK9	SK10	
SD6	431	北区	AG-AH	2	Ⅲ上	c	c	a	Ⅱ	2.04	0.33	1.91	0.22	0.1			
SD7	439	北区	AH-AI	2	Ⅲ上	c	c	a	Ⅳ	(6.61)	0.46	(6.57)	0.22	0.2			大洞東１
SD8	432	北区	AH	3	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	(2.16)	0.2	(2.16)	0.09	0.11	SK31, SK34		
SD9	436	北区	AI	3	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	(3.57)	0.56	(3.55)	0.47	0.06			大谷洞14
SD10	443	北区	AI	2	Ⅲ上	c	c	a	Ⅲ	2.87	(1.05)	2.76	(1.01)	0.31			
SD11	446	南区	AS	4	Ⅲ上	c	c	a	Ⅳ	(3.89)	0.26	(3.89)	0.1	0.08		SD12	
SD12	450	南区	AS	4	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	(6.48)	0.19	(6.48)	0.09	0.08	SD11		
SD13	448	南区	AS	4	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	(0.29)	0.49	(0.29)	0.26	0.19		SK36, SK37	
SD14	455	南区	AT	5	Ⅲ上	c	c	a	Ⅱ	(2.29)	0.7	(2.21)	0.46	0.23		SK39	
SD15	458	南区	CA-CB	5	Ⅲ上	c	c	b	Ⅰ	(4.65)	0.16	(4.62)	0.09	0.04			
SD16	479	南区	CC-CD	7-8	Ⅲ上	c	c	a	Ⅲ	(6.03)	0.3	(5.92)	0.09	0.08	SK85	SK87	
SD17	555	南区	CD	6	Ⅲ上	c	c	a	Ⅲ	(11.7)	1.9	(11.7)	0.39	0.4		SD18, SD19	生田２
SD18	559	南区	CD	8	Ⅲ上	c	c	a	Ⅲ	(5.45)	(0.7)	(4.0)	0.4	0.4	SD17	SD19	
SD19	485	南区	CD	8	Ⅲ上	c	c	b	Ⅱ	(4.4)	(3.2)	(4.4)	(3.1)	0.23	SK91, SD17, SD18, SK92, SK93, SK94	SK88, SK95, SK97, SK98, SK96	古瀬戸後期
SD20	490	南区	CD	9-10	Ⅲ上	c	c	a	Ⅳ	1.97	0.26	1.85	0.23	0.03		SK99	
SD21	501	南区	CD	11	Ⅲ上	c	c	a	Ⅳ	(1.13)	0.13	(1.1)	0.06	0.03			
SI1	473	南区	CB	6-7	Ⅲ上	c	c	a	Ⅲ	0.84	0.65	0.6	0.5	0.25			
SI2	475	南区	CC	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.58	0.45	0.3	0.25	0.15			
SI3	511	南区	CC	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.92	0.77	0.71	0.55	0.12			
SI4	543	南区	CD	11	Ⅲ上			-		0.43	0.27			0			
SK1	401	北区	AB	3	Ⅲ上	a	c	a	Ⅵ	0.95	0.7	0.62	0.45	0.08			
SK2	402	北区	AB	3	Ⅲ上	a	c	a	Ⅵ	0.9	0.78	0.61	0.56	0.12			
SK3	403	北区	AB	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅱ	0.49	(0.13)	0.33	(0.09)	0.04	SD1		
SK4	550	南区	AS	4	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.25	0.22	0.12	0.09	0.03			
SK5	547	北区	AC	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.62	0.55	0.28	0.2	0.14			
SK6	548	北区	AC	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.38	0.22	0.25	0.11	0.05			
SK7	444	北区	AC	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	0.2	0.2	0.1	0.07	0.09			
SK8	406	北区	AC	3-4	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	1.3	0.58	0.89	0.22	0.19		SK9, SK10	
SK9	433	北区	AC	4	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	0.96	(0.43)	0.64	(0.33)	0.12	SK8	SD5	
SK10	441	北区	AC	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅵ	0.35	(0.23)	0.3	(0.22)	0.12	SK8, SD5		
SK11	408	北区	AC	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.74	(0.35)	0.54	(0.2)	0.27	SD4		
SK12	409	北区	AC-AD	3	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	1.15	0.77	0.8	0.24	0.16			
SK13	412	北区	AD	3	Ⅲ上	a	c	a	Ⅵ	1.03	0.43	0.76	0.17	0.27		SK14, SD4	
SK14	410	北区	AD	3	Ⅲ上	c	c	a	Ⅳ	0.82	0.15	0.65	0.07	0.06	SK13		
SK15	411	北区	AD	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.24	0.18	0.13	0.09	0.03			
SK16	413	北区	AE	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.24	0.21	0.18	0.11	0.1			
SK17	414	北区	AE	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.27	0.21	0.17	0.1	0.06			
SK18	415	北区	AE	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅵ	0.32	0.28	0.2	0.14	0.24			
SK19	416	北区	AF	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.27	0.22	0.13	0.08	0.08			
SK20	417	北区	AF	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.23	0.21	0.12	0.11	0.15			
SK21	418	北区	AF	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.25	0.17	0.12	0.08	0.14			
SK22	422	北区	AF	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅵ	0.95	0.8	0.66	0.59	0.22		SK24, SK23	
SK23	423	北区	AF	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅱ	0.23	(0.15)	0.15	(0.11)	0.13	SK22		
SK24	421	北区	AF	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	1.07	(0.5)	0.86	(0.42)	0.07	SK22		
SK25	419	北区	AF	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.24	0.19	0.11	0.09	0.26		SK26	
SK26	420	北区	AF	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.22	(0.14)	0.15	(0.1)	0.18	SK25		
SK27	424	北区	AG	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.23	0.21	0.18	0.14	0.25			
SK28	425	北区	AG	3	Ⅲ上	c	a	a	Ⅰ	0.35	0.22	0.21	0.07	0.1			
SK29	427	北区	AG	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.32	0.18	0.17	0.1	0.05			
SK30	428	北区	AH	3	Ⅲ上	c	c	a	Ⅲ	0.4	0.27	0.26	0.13	0.07			
SK31	429	北区	AH	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.43	0.36	0.37	0.31	0.07		SD8	
SK32	430	北区	AH	2	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.4	0.28	0.2	0.15	0.08			
SK33	426	北区	AH	3	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.52	0.27	0.4	0.18	0.04			
SK34	442	北区	AI	3	Ⅲ上	c	c	a	Ⅳ	0.54	(0.29)	0.36	(0.13)	0.06		SD8	
SK35	440	北区	AI	2	Ⅲ上	c	c	b	Ⅱ	(1.29)	0.79	(1.05)	0.65	0.3			大洞東１
SK36	510	南区	AR	4	Ⅲ上	c	a	a	Ⅰ	(0.31)	0.08	(0.29)	0.05	0.03	SD13		
SK37	454	南区	AS	5	Ⅲ上	c	c	a	Ⅳ	0.46	(0.23)	0.38	(0.19)	0.07	SD13		
SK38	453	南区	AS	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	0.22	(0.09)	0.08	(0.03)	0.21			
SK39	456	南区	AT	5	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	(0.84)	0.21	(0.71)	0.07	0.11	SD14		
SK40	457	南区	AT	5	Ⅲ上	c	c	a	Ⅳ	(0.7)	(0.5)	(0.64)	(0.28)	0.15			
SK41	529	南区	AT	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.35	0.25	0.29	0.18	0.05			
SK42	530	南区	AT	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.22	0.14	0.15	0.09	0.03			
SK43	533	南区	CA	5	Ⅲ上	a	c	a	Ⅰ	0.49	0.31	0.37	0.21	0.06		SK44	
SK44	554	南区	CA	5	Ⅲ上	c	c	a	Ⅲ	(0.17)	(0.16)	(0.17)	(0.16)	0.04	SK47, SK45		
SK45	553	南区	CA	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	0.28	0.19	0.15	0.07	0.03		SK44, SK46	
SK46	565	南区	CA	5	Ⅲ上	a	c	a	Ⅱ	0.33	0.24	0.14	0.11	0.2	SK45		
SK47	552	南区	CA	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.27	(0.26)	0.23	(0.16)	0.05	SK48	SK44	

第6表　遺構一覧表(2)

遺構番号	登録番号	地区	グリッド		検出面	平面形状	底面形状	堆積状況	断面形状	大きさ（m）					重複関係		所属時期
			南北	東西						上端		下端		深さ	＜（切られる）	＞（切る）	
										長軸	短軸	長軸	短軸				
SK48	551	南区	CA	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.33	0.31	0.28	0.19	0.02		SK51, SK47	
SK49	531	南区	CA	5	Ⅲ上	c	c	a	Ⅳ	0.73	0.43	0.67	0.37	0.04		SK50	
SK50	564	南区	CA	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	(0.3)	(0.11)	(0.25)	(0.09)	0.05	SK49, SK51		
SK51	532	南区	CA	5	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	(0.57)	0.46	(0.34)	0.3	0.06	SK48	SK50	
SK52	528	南区	CA	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.42	0.27	0.39	0.18	0.05			
SK53	527	南区	CA	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.21	0.12	0.11	0.04	0.04			
SK54	503	南区	CA	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.55	0.5	0.31	0.3	0.05			
SK55	534	南区	CA	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	0.23	0.18	0.07	0.06	0.33			
SK56	505	南区	CA	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.35	0.27	0.23	0.17	0.04			
SK57	460	南区	CA	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.24	0.14	0.19	0.07	0.03			
SK58	461	南区	CA	5	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	0.79	0.58	0.48	0.28	0.18	SK59		
SK59	462	南区	CA	5	Ⅲ上	c	a	a	Ⅱ	0.53	0.4	0.45	0.35	0.04		SK59, SK60	
SK60	463	南区	CA	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	0.34	(0.14)	0.19	(0.06)	0.11	SK59		
SK61	465	南区	CA-CB	6	Ⅲ上	a	c	a	Ⅲ	0.23	0.14	0.13	0.06	0.06			
SK62	508	南区	CB	5	Ⅲ上	c	a	a	Ⅵ	0.42	0.16	0.3	0.13	0.33			
SK63	467	南区	CB	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.57	0.4	0.42	0.26	0.08			
SK64	468	南区	CB	5-6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅵ	0.28	0.23	0.09	0.09	0.12			
SK65	542	南区	CB	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.14	0.12	0.08	0.05	0.03			
SK66	523	南区	CB	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.19	0.09	0.16	0.08	0.05			
SK67	469	南区	CB	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	(0.4)	0.34	(0.3)	0.22	0.06	SK68		
SK68	470	南区	CB	6	Ⅲ上	b	c	a	Ⅲ	0.67	0.51	0.48	0.2	0.15		SK67, SK69	
SK69	471	南区	CB	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	(0.28)	0.22	(0.17)	0.1	0.06	SK68		
SK70	539	南区	CB	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	0.17	0.15	0.08	0.08	0.27			
SK71	474	南区	CB	6-7	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	0.25	0.16	0.17	0.05	0.04			
SK72	525	南区	CB	7	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.25	0.16	0.19	0.1	0.13			
SK73	520	南区	CB	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.15	0.07	0.1	0.05	0.04			
SK74	519	南区	CB	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.2	0.11	0.2	0.09	0.06			
SK75	538	南区	CC	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.22	0.11	0.17	0.12	0.33			
SK76	517	南区	CC	5	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.25	0.17	0.24	0.12	0.05			
SK77	509	南区	CC	5	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	0.54	(0.33)	0.29	(0.25)	0.14			
SK78	515	南区	CC	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.5	0.43	0.36	0.36	0.07			
SK79	514	南区	CC	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.28	0.19	0.19	0.13	0.08			
SK80	513	南区	CC	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.16	0.09	0.13	0.08	0.05			
SK81	518	南区	CC	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.22	0.22	0.09	0.09	0.12			
SK82	512	南区	CC	6	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.33	0.19	0.21	0.08	0.06			
SK83	476	南区	CB-CC	7	Ⅲ上	a	a	a	Ⅱ	1	0.75	0.93	0.68	0.08			
SK84	477	南区	CC	7	Ⅲ上	a	c	a	Ⅲ	0.67	(0.32)	0.4	(0.05)	0.33	SK86		
SK85	478	南区	CC	7	Ⅲ上	c	c	a	Ⅲ	2.18	0.72	1.4	0.3	0.42		SK84, SD16	
SK86	480	南区	CC	7	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	0.53	0.43	0.29	0.23	0.2			
SK87	481	南区	CD	7	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.25	(0.18)	(0.14)	0.11	0.08	SD16		
SK88	482	南区	CC	8	Ⅲ上	c	c	a	Ⅱ	(2.14)	(1.29)	(2.14)	(1.11)	0.2	SK89, SK90, SD19		
SK89	483	南区	CC	8	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	0.29	0.22	0.17	0.11	0.2		SK88	
SK90	484	南区	CC	8	Ⅲ上	a	c	a	Ⅱ	0.26	0.21	0.13	0.08	0.38		SK88	
SK91	486	南区	CD	9	Ⅲ上	b	b	a	Ⅰ	2.28	1.1	2.16	0.93	0.12		SD19, SK92, SK93, SK94, SK95	大洞東１
SK92	556	南区	CD	9	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.4	(0.22)	0.19	(0.15)	0.13	SK91, SK93	SK94	
SK93	557	南区	CD	9	Ⅲ上	a	a	a	Ⅳ	0.21	0.16	0.15	0.11	0.05	SK91	SK92, SK94	
SK94	558	南区	CD	9	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	(0.12)	(0.08)	(0.08)	(0.05)	0.06	SK91, SK92, SK93		
SK95	488	南区	CC	9	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	(2.44)	(0.94)	(2.23)	(0.78)	0.09	SK91, SD19	SK96	
SK96	563	南区	CD	9	Ⅲ上	c	c	a	Ⅲ	(0.17)	(0.12)	(0.14)	(0.12)	0.07	SD19, SK95, SK97		
SK97	561	南区	CD	9	Ⅲ上	c	a	a	Ⅰ	0.56	(0.28)	0.46	(0.2)	0.1	SD19	SK96	
SK98	562	南区	CD	9	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	0.36	(0.19)	0.27	(0.13)	0.06	SD19		
SK99	489	南区	CD	9	Ⅲ上	a	b	a	Ⅳ	0.24	(0.18)	0.18	(0.12)	0.05	SD20		
SK100	560	南区	CD	9	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	0.58	(0.12)	0.31	(0.03)	0.1	SK101		
SK101	492	南区	CD	9-10	Ⅲ上	c	c	a	Ⅱ	2.02	1.18	1.9	1.1	0.15		SK102, SK100	
SK102	493	南区	CD	10	Ⅲ上	c	c	a	Ⅰ	(1.48)	1.34	(1.36)	1.04	0.23	SK101		
SK103	494	南区	CD	10	Ⅲ上	b	b	a	Ⅳ	(0.45)	0.26	(0.43)	0.22	0.05			
SK104	495	南区	CD	11	Ⅲ上	c	a	a	Ⅳ	0.31	0.2	0.19	0.14	0.05			
SK105	496	南区	CD	11	Ⅲ上	c	a	a	Ⅰ	0.59	0.12	0.11	0.08	0.04		SK106	
SK106	497	南区	CD	11	Ⅲ上	c	c	a	Ⅳ	(0.35)	0.15	(0.33)	0.08	0.03	SK105		
SK107	498	南区	CD	11	Ⅲ上	a	a	a	Ⅵ	0.35	0.17	0.27	0.1	0.08			
SK108	499	南区	CD	11	Ⅲ上	c	c	a	Ⅵ	0.5	0.42	0.2	0.05	0.05			
SK109	500	南区	CD	11	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.4	0.31	0.2	0.15	0.14			
SK110	537	南区	CD	11	Ⅲ上	a	a	a	Ⅲ	0.3	(0.14)	(0.12)	0.08	0.09			
SK111	536	南区	CD	11	Ⅲ上	a	a	a	Ⅰ	0.22	(0.09)	0.12	(0.04)	0.13			

第７表　土器観察表（１）掲載遺物

掲載番号	地区	グリッド	遺構番号	器種	部位	法量(cm)				色調		成形・調整		釉薬	時期	挿図	写真
						口径	底径	器高	最大幅	内面	外面	内面	外面				
1	北区	AC3	SD4	古瀬戸	瓶類	－	(10.0)	－	－	10YR6/6	2.5Y7/4			内外面灰釉	古瀬戸後期	11	5
2	北区	AC3	SD4	山茶碗	碗	(13.7)	(5.9)	5.1	－	2.5Y7/2	2.5Y7/2	回転ナデ	回転ナデ　回転糸切痕 貼付高台　底部にヘラ書きあり		大畑大洞４	11	5
3	北区	AI3	SD9	山茶碗	碗	－	(6.8)	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/2	回転ナデ	回転糸切痕　貼付高台		大谷洞14	11	5
4	北区	AB3	SD2	須恵器	杯身	－	(6.4)	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/1		ナデ	内外面自然釉		11	5
5	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	－	－	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ		明和１	11	5
6	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	－	(4.6)	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ　貼付高台	内面自然釉	大畑大洞４	11	5
7	北区	AC3	包含層	山茶碗	碗	－	(4.8)	－	－	10YR8/4	2.5Y8/3	回転ナデ	回転ナデ　回転糸切痕 貼付高台		大谷洞14	11	5
8	北区	AD3	包含層	山茶碗	碗	(11.8)	－	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ		大谷洞14	11	5
9	北区	AF3	包含層	山茶碗	碗	－	－	(5.7)	－	2.5Y7/1	2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ　回転糸切痕 貼付高台		大畑大洞４	11	5
10	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	－	(5.0)	－	－	10YR6/2	10YR6/2	回転ナデ	回転ナデ　貼付高台		大畑大洞４	11	5
11	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	(10.8)	(1.4)	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/1	ナデ	ナデ　回転糸切痕　貼付高台		大洞東１	11	5
12	北区	AC3	包含層	山茶碗	碗	－	(5.8)	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ　回転糸切痕 貼付高台		大畑大洞４	11	5
13	北区	AB3	包含層	山茶碗	小碗	－	(5.0)	－	－	2.5Y7/2	2.5Y7/2	回転ナデ	回転ナデ　回転糸切痕 貼付高台		明和１	11	5
14	北区	AE3	包含層	山茶碗	碗	－	(4.6)	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/1		回転糸切痕　貼付高台		大畑大洞４	11	5
15	北区	AH2	包含層	山茶碗	碗	－	(6.0)	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ　回転糸切痕 貼付高台	内面自然釉	大畑大洞４	11	5
16	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	－	(3.8)	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ　回転糸切痕 貼付高台		大洞東１	11	5
17	北区	AH3	包含層	山茶碗	卸碗	－	(5.8)	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ　回転糸切痕 貼付高台	外面自然釉	大畑大洞４	11	5
18	北区	AD3	包含層	近世陶器	天目茶碗	(10.9)	－	－	－	7.5YR4/3	7.5Y8/1 7.5YR4/3	回転ナデ	回転ナデ　回転ヘラケズリ	内外面鉄釉	１７Ｃ前葉	11	5
19	北区	AH3	包含層	古瀬戸	壺類	－	－	－	－	5Y6/3	5Y6/3	回転ナデ	回転ナデ	内外面灰釉	古瀬戸後期	11	5
20	北区	AH3	包含層	大窯	丸皿	－	(5.2)	－	－	7.5YR5/3	7.5YR5/4	印花文	底部回転ケズリ込み高台	内外面鉄釉		11	5
22	南区	CD8	SD17	古瀬戸	平碗	(14.8)	－	－	－	5Y6/2	5Y6/2			内外面灰釉		14	4
23	南区	CD9	SK91	山茶碗	碗	(13.1)	－	－	－	2.5Y7/1	2.5Y7/2	回転ナデ	回転ナデ		大洞東1	14	4
24	南区	CA4	包含層	須恵器	甕	－	－	－	－	2.5Y6/1	2.5Y6/1	タタキ	タタキ			14	4
25	南区	AT5	包含層	山茶碗	碗	－	(4.4)	－	－	2.5Y8/2	2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ　回転糸切痕 貼付高台		大洞東１	14	4
26	南区	CD8	SD17	土師器	鉢	－	－	－	－	10YR4/2	7.5YR4/4	ナデ	ケズリ			14	4
27	南区	CD8	SD17	土師器	鉢	－	－	－	－	7.5YR7/2	7.5YR7/2	ナデ	ケズリ			14	4
28	南区	CC9	包含層	大窯	擂鉢	(32.1)	－	－	33.9	10YR3/2	10YR3/2	回転ナデ	回転ナデ	内外面鉄釉		14	4

第８表　打製石斧観察表

掲載番号	地区	グリッド	遺構番号	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	遺存状況	刃部摩耗	自然面の有無	挿図	写真
21	北区	AI3	包含層	ホルンフェルス	(7.5)	3.4	1.7	(60.9)	折損	なし	あり	11	5

第９表　ＭＦ観察表

掲載番号	地区	グリッド	遺構番号	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺			素材形状	挿図	写真
									数	位置	方向			
29	南区	CB6	SK66	下呂石	2.8	2.1	0.8	4.5	1	末端辺	両面	横長	14	4
									2	側辺	背面			

第10表　土器観察表（２）未掲載遺物

取上番号	地区	グリッド	遺構番号	器種	部位	色調		成形・調整		釉薬	時期
						内面	外面	内面	外面		
3031	北区	AB3	SD1	土師器		10YR7/3	10YR7/3				
3029	北区	AH2	SD7	山茶碗	碗	2.6Y7/1	2.5Y7/1				大洞東１
3028	北区	AH2	SD7	瓦		10YR7/2	10YR7/2				
3047	北区	AI2	SK35	山茶碗	碗	10YR7/3	10YR7/3				大洞東１
3030	北区	AI2	SK35	山茶碗		10YR7/2	10YR7/2				大畑大洞４以降
3010	北区	AE3	包含層	土師器		10YR8/2	10YR8/2				
3017	北区	AH3	包含層	土師器		10YR8/3	10YR8/3				
3019	北区	AF2	包含層	土師器		10YR8/3	10YR8/3				
3017	北区	AH3	包含層	土師器		10YR6/1	10YR6/1				
3021	北区	AH3	包含層	須恵器		5Y6/1	5Y5/1				
3007	北区	AD3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y7/2	2.5Y7/2				大畑大洞４以降
3007	北区	AD3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y7/1	2.5Y7/1				大畑大洞４以降
3007	北区	AD3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y8/2	2.5Y8/2				大畑大洞４以降
3007	北区	AD3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y8/2	2.5Y8/2				大畑大洞４以降
3007	北区	AD3	包含層	山茶碗	碗	10YR7/3	10YR7/2				大畑大洞４以降
3007	北区	AD3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y7/1	2.5Y7/1				大畑大洞４以降
3007	北区	AD3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y7/1	2.5Y7/1				大畑大洞４以降
3022	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y7/1	2.5Y7/1				大畑大洞４以降
3017	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y7/2	2.5Y7/2				大畑大洞４以降
3017	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y7/1	2.5Y7/1				大畑大洞４以降
3017	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y8/2	2.5Y8/2				大畑大洞４以降
3017	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y7/2	2.5Y7/2				大畑大洞４以降
3017	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y7/2	2.5Y7/2				大畑大洞４以降
3017	北区	AH3	包含層	山茶碗	碗	2.5Y7/1	2.5Y7/1				大畑大洞４以降
3017	北区	AH3	包含層	山茶碗	皿	2.5Y7/1	2.5Y7/1				大畑大洞４以降
3021	北区	AH3	包含層	山茶碗	皿	2.5Y7/1	2.5Y7/2				大洞東１
3024	北区	AH2	包含層	山茶碗	碗	5Y8/1	5Y8/1				大畑大洞４
3021	北区	AH3	包含層	近世陶器		5Y8/1	5Y8/1				
3021	北区	AH3	包含層	近世陶器		10Y8/1	10Y8/1				
3021	北区	AH3	包含層	近世陶器		5YR3/2　2.5Y7/2	5YR3/2				
3021	北区	AH3	包含層	近世陶器		5YR2/3	5YR2/1				
3009	北区	AH3	包含層	灰釉陶器	壺	10YR7/1	5Y6/3		２次的被熱	外面自然釉	
3021	北区	AH3	包含層	近世陶器		5Y8/2	5Y8/2				
3013	北区	AC3	包含層	磁器		10Y8/1	10Y8/1				近代以降の可能性有り
3038	南区	CC8	SD17	土師器	鉢	5YR7/6	5YR7/6	ナデ	ケズリ		
3036	南区	CC8	SD17	土師器	鉢	7.5YR7/6	7.5YR7/6	ナデ	ケズリ		
3053	南区	CD9	SD18	山茶碗		2.5Y6/1	2.5Y6/1				生田２
3051	南区	CD8	SD19	古瀬戸	平碗	5Y7/3	5YR7/3 7.5YR7/6				古瀬戸後期
3049	南区	CB5	SK62	瓦		10YR7/3	10YR6/3				
3044	南区	CD10	SK101	土師器		7.5YR6/3	7.5YR6/3				
3056	南区	CD11	SK106	土師器		7.5YR6/4	5YR6/6				
3004	南区	CB5	包含層	山茶碗	碗	2.5Y7/1	2.5Y7/1				大畑大洞４以降
3003	南区	CA6	包含層	磁器		7.5R1.7/1	7.5R1.7/1		２次的被熱	内外面鉄釉	美濃
3003	南区	CA6	包含層	近世陶器		7.5YR4/1	7.5YR4/1				

第４章　総括

今回の調査区は遺跡の西端にあたり、段丘崖の段差などもあった。このため、遺跡の全容を解明するような遺構・遺物を確認することはできなかった。ここでは、今回の調査成果から読み取れる事項を整理して総括とする。

１　出土遺物の様相について

今回の調査では、出土遺物数が小破片まで含めて73点と非常に少なかった。これらの遺物の出土グリッドごとに出土数を整理した(第11表)。これによると、北区、南区とも東側グリッドに遺物が集中していることがわかる。東側に平坦面が続き、今回の調査区を西端として遺跡は、東側に展開しているものと考えられる。また、北区においては東側グリッド全体に遺物が出土している中で、調査区の南端部付近の遺物出土が55点中35点と突出している。美濃加茂市教育委員会による試掘・確認調査の結果をみても、13トレンチにおける遺物の出土数は突出している(第１表)。ＡＨ、ＡＩグリッドの東側平坦面上に集落などが展開している可能性が考えられる。

器種ごとの様相をみると、山茶碗の出土量が突出している点が注目される。出土遺物中において山茶碗が半数以上を占めている(第４表)。これらの山茶碗は、明和１号窯式期に比定される２点を除いて大畑大洞４号窯式期以降に比定され、14世紀～15世紀に位置付けられる。また、古瀬戸もすべて古瀬戸後期に比定され、14世紀～15世紀に位置付けられる。また、16世紀に比定される大窯製品２点を加え、中世の土器全体では出土遺物73点中43点となり、58.9%を占める。これに対し、近世の遺物は、近世陶器７点と磁器２点で９点となり、12.3%となる。

この中世遺物の出土数が多いという点においては、前回調査でも同様の結果が示されている。前回調査でも山茶碗は出土遺物中39.6%を占めており、出土遺物のなかで最も多く出土している。また、中世の土器は68.6%を占め、近世の土器は11.1%にとどまるという。概ね今回の調査結果と同様の様相を示しているといえる。

石器に関しては、今回２点の出土にとどまった。前回調査では165点の石器及び石製品が出土しており、石器類は調査区北側に集中し、前回調査区の東側に縄文の集落が存在する可能性がある。

第11表　グリッド別出土点数

北区			
グリッド	2	3	4
AA	0	0	
AB	0	3	0
AC	0	4	0
AD	0	9	0
AE	0	2	
AF	1	1	
AG	0	0	
AH	4	27	
AI	2	2	
合計	55		

南区									
グリッド	4	5	6	7	8	9	10	11	12
AR	0	0							
AS	0	0							
AT	0	1	0						
CA	1	0	2						
CB	0	2	1	0	0				
CC		0	0	0	3	1	0		
CD			0	0	3	2	1	1	
合計	18								

※実際のグリッド配置は上が北であり、この表は実際のグリッド配置に合わせて作成している(上が北)

２　確認遺構と旧地籍について

調査区周辺の地割り状況については、前回調査時に明治時代の地籍図を都市計画図に重ね合わせた地図を作成している(第24図)。第24図によると、大きな区画は現代においても概ね踏襲されていることが読み取れる。

今回の調査区周辺について、第24図を拡大して遺構全体図を組み合わせた(第25図)。

北区では、地山面の段差と地境が一致している。このことから明治期には地形に合わせて区画されていたと考えられる。地籍図以降に盛土により耕地が拡張され、地境も変わったものと思われる。

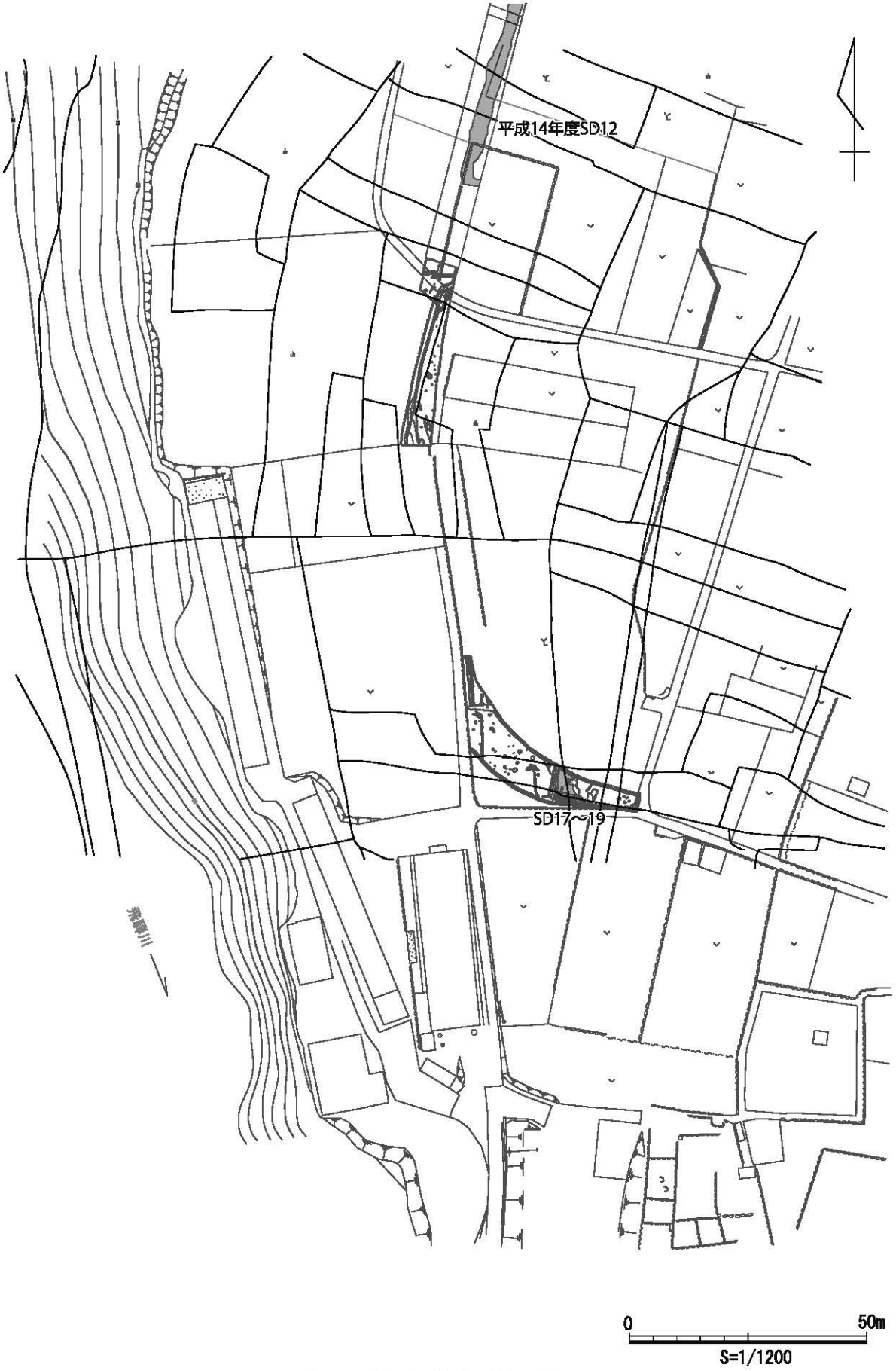
また、南区の溝跡(ＳＤ17～19)は全体の規模が不明であり根拠は乏しいが、ＳＤ19が明治の地籍図の地境と重なることから(第25図)、屋敷地などを区画する溝である可能性がある。ＳＤ17、18はＳＤ19を掘り直した可能性がある。ＳＤ17～19と前回調査で確認している屋敷の区画溝(ＳＤ12)はほぼ同時期と考えられる。こちらは対応する地境は確認できない。

３　深渡Ａ地点遺跡の位置付け

過去２度の調査において、深渡Ａ地点遺跡は縄文から近世までの幅広い時代に営々と営まれた遺跡であると考えられる。その中でも、特に中世の遺構・遺物が多数を占め、遺跡の主体をなす。

深渡Ａ地点遺跡は、中世において居住域として人々の生活の場であった。その後、近世にはいると出土遺物数が減少することから、居住域から畑作などを行う耕作地に変わったものと考えられる。

第24図　調査地周辺の地割り状況
((財)岐阜県教育文化財団文化財保護センター2004より作成、「美濃加茂市都市計画図(1/2,500)」を縮小して使用)

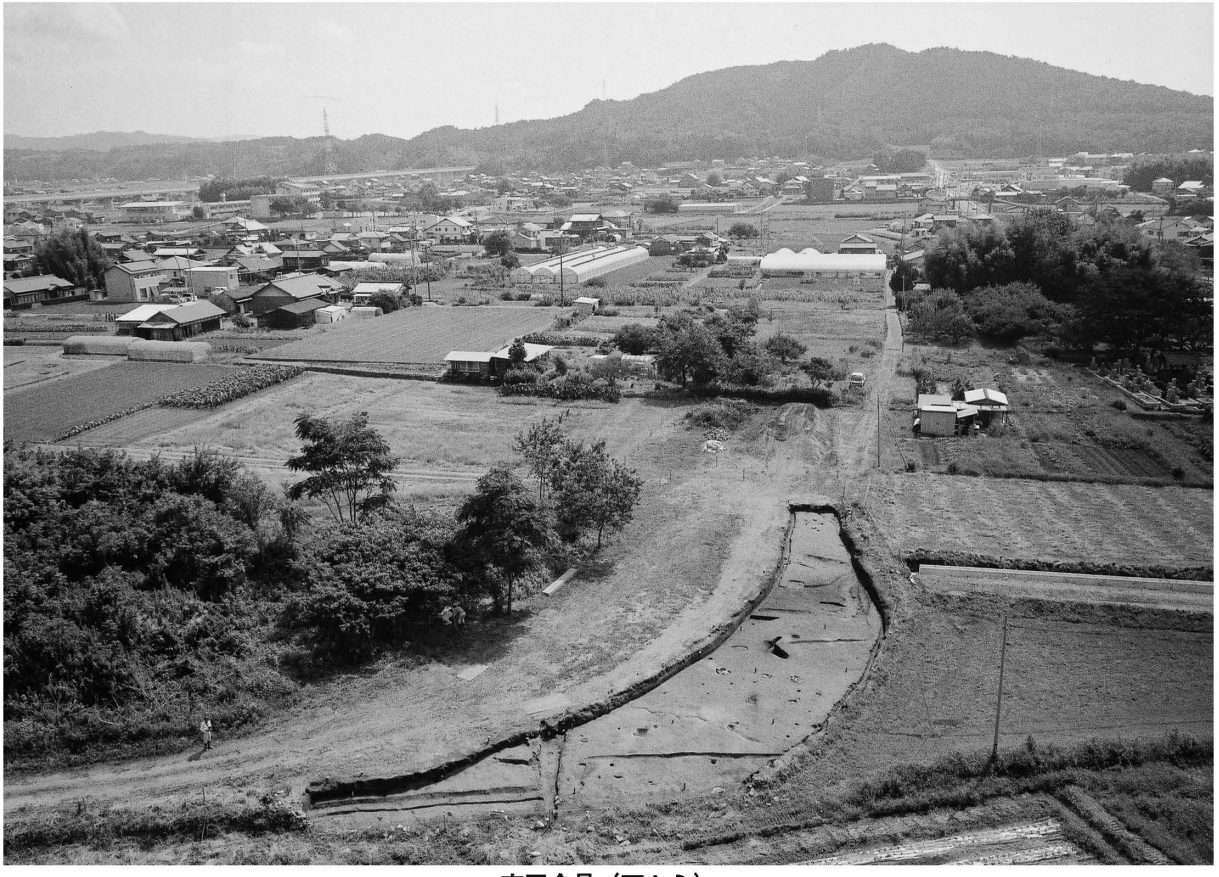


第25図　調査区付近の地割り状況

参考文献

愛知県史編さん委員会2007『愛知県史　別編　窯業2　中世・近世　瀬戸系』
可児市教育委員会1999『前波の三ツ塚』(可児市埋文調査報告34)
(財)岐阜県文化財保護センター1994『尾崎遺跡』
(財)岐阜県文化財保護センター2000『野笹遺跡』
(財)岐阜県文化財保護センター2001『針田遺跡・東坪之内遺跡・田中裏遺跡』
(財)岐阜県文化財保護センター2001『佐口遺跡』
(財)岐阜県文化財保護センター2002『冨田清友遺跡』
(財)岐阜県文化財保護センター2002『野笹遺跡Ⅱ・赤池４号古墳』
(財)岐阜県教育文化財団文化財保護センター2004『野笹遺跡Ⅲ』
(財)岐阜県教育文化財団文化財保護センター2004『深渡Ａ地点遺跡』
田口昭二1983『美濃焼』(考古学ライブラリー17)、ニュー・サイエンス社
美濃加茂市編1980『美濃加茂市史通史編』
美濃加茂市教育委員会編1994『大地の生いたち美濃加茂』(美濃加茂ふるさとファイルNo.5)
美濃加茂市教育委員会編1995『市民のための美濃加茂の歴史』
美濃加茂市民ミュージアム2002『発掘された尾崎遺跡展』
山内伸浩2008「東濃地域における灰釉陶器・山茶碗生産の一様相」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知大会実行委員会

北区全景（西から）

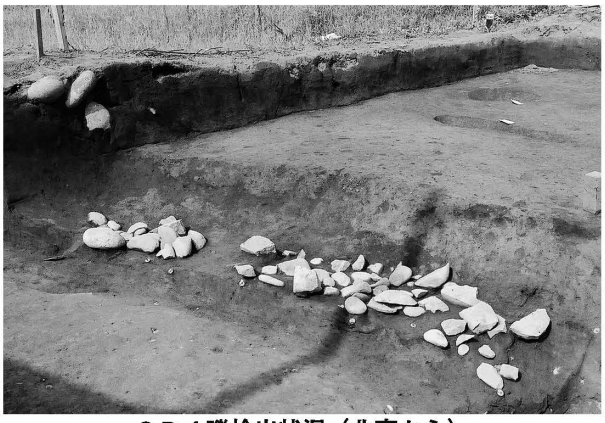


南区全景（西から）

図版２

北区調査前風景（北から）

南区調査前風景（東から）



ＳＤ４礫検出状況（北東から）

ＳＤ４山茶碗出土状況（北から）

ＳＤ４完掘状況（北東から）

ＳＤ２（西から）

ＳＤ９（右側、北西から）

ＳＫ35（南から）

ＳＤ17・ 18・19（東から）

ＳＤ17・ 18・19（北から）

ＳＤ17・ 18・19（南から）

ＳＤ17・ 18 検出状況（東から）

ＳＤ17・ 18・19 埋土断面（西から）

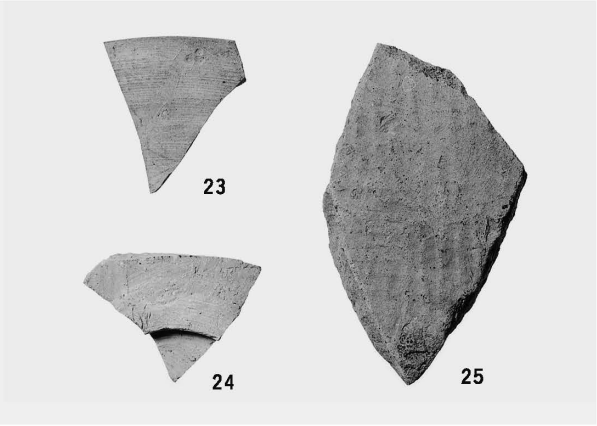
図版４

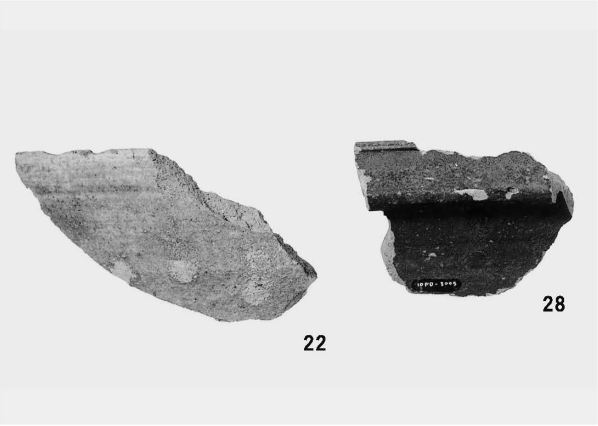
ＳＫ91（東から）

ＳＫ66（右側、南から）

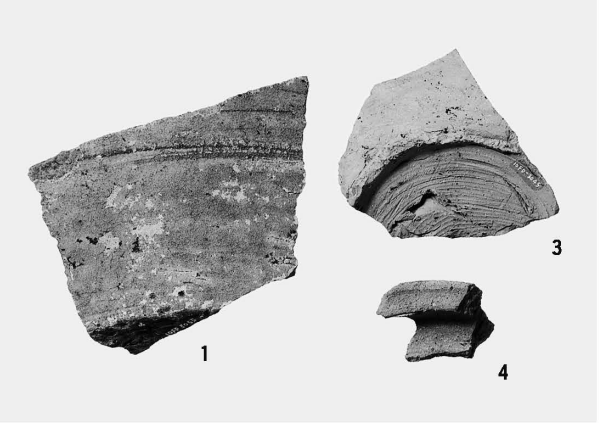
ＳＩ１（西から）

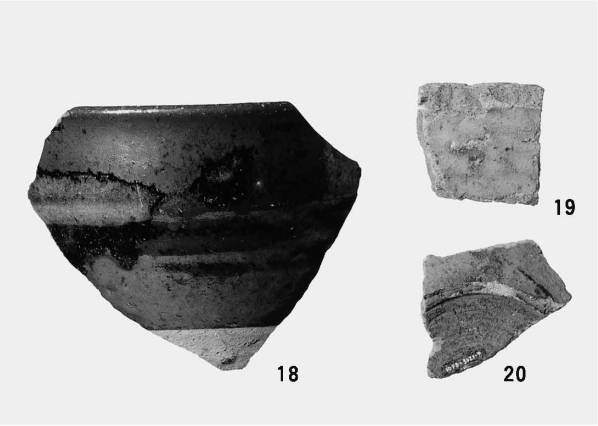
ＳＩ２（南東から）

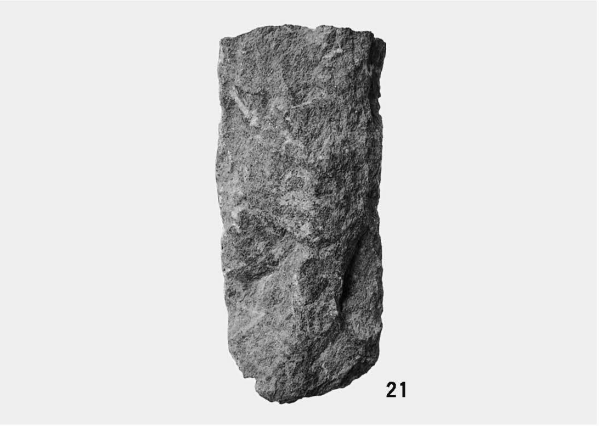


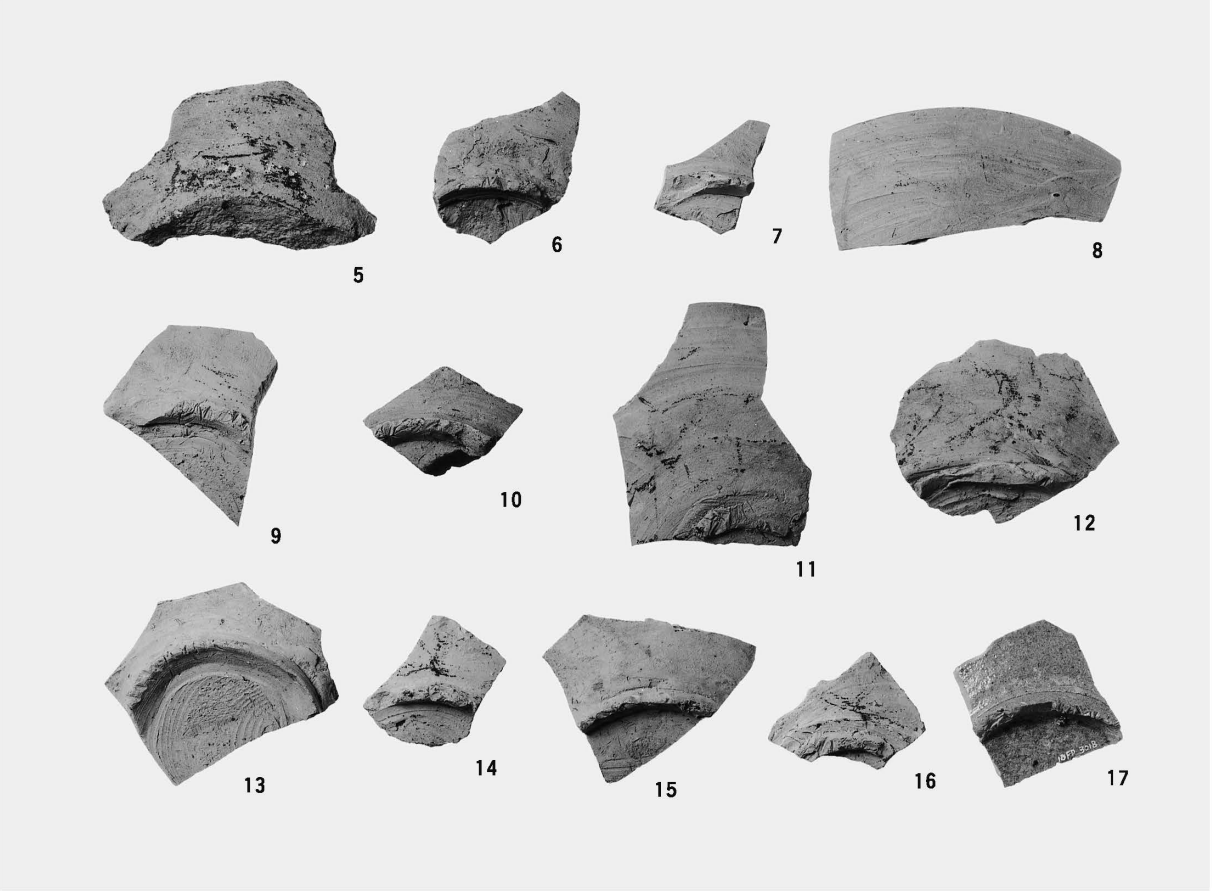


南区出土遺物









北区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ふかとＡちてんいせき２
書　　名	深渡Ａ地点遺跡Ⅱ
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第118集
編著者名	澤村雄一郎
編集機関	岐阜県文化財保護センター
所　在　地	〒502-0003　岐阜市三田洞東１－26－１　TEL 058-237-8550
発行年月日	西暦2011年3月18日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
深渡Ａ地点遺跡（ふかと　ちてんいせき）	岐阜県（ぎふけん） 美濃加茂市（みのかもし） 下米田町（しもよねだちょう） 西脇（にしわき）	21211	04435	35° 27′ 48″	137° 03′ 16″	20100628 ～ 20100831	626.6㎡	県営一般農道整備事業（牧野地区）に伴う

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
深渡Ａ地点遺跡	集落跡	室町時代	溝　　跡　21条 集石遺構　４基 土　　坑　111基	土師器　11点 山茶碗　39点 古瀬戸　４点 大　窯　２点	室町時代の溝跡、土坑を検出。

要約	深渡Ａ地点遺跡は、これまでに縄文から近世にかけての遺物が採取されているが、今回の調査では室町時代の溝跡、集石遺構・土坑などの遺構と山茶碗・古瀬戸・土師器・大窯などの陶磁器類及び打製石斧・ＭＦなどの石器を確認した。また、遺物は14世紀から15世紀に比定される陶磁器類が過半数を占める。一方、近世の遺構・遺物はほとんど確認されなかった。調査区周辺には室町時代の集落が広がっていたが、近世には集落は廃絶し、現在同様畑地となっていたと推測される。南区で確認した溝跡(SD17～19)は、地籍図との比較から屋敷地を区画する溝の可能性がある。

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第118集

深渡Ａ地点遺跡Ⅱ

2011年 3月18日

編集・発行　岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1
印　　刷　有限会社 もとすいんさつ